

『男はつらいよ』研究～笑いの類型別調査を中心に～

A Study of "Tora-san" – Focusing on Type of Laughter –

大谷 孝行
OTANI Takayuki

本稿は、映画『男はつらいよ』全48作について、登場人物と笑いの類型という観点から、作品で生み出されている笑いの分類を試みたものである。この映画は単なる喜劇映画には収まらない社会性と哲学を内包した作品であるが、名優渥美清をはじめとした登場人物たちが、作品中、様々な笑いを生む、笑いの多い作品である。登場人物としては、主人公の寅、さくら、おいちゃん、おばちゃん、博、満男、タコ社長、御前様、源ちゃん、マドンナ、他の人物を挙げ、さらにはそれに物・道具を加え、計12に分類した。笑いについては、「優越の笑い」、「ズレの笑い」、「放出の笑い」、「言葉の笑い」、「表情・外見の笑い」、「所作・身体の笑い」の6つに類型化した。各登場人物における笑いの特徴と、6種類の笑いのそれぞれに見られる特徴を描出した。

キーワード：『男はつらいよ』、笑い、渥美清、類型別調査

1. はじめに

山田洋次監督の映画『男はつらいよ』は、第48作まで続く、日本映画界に金字塔を打ち立てた作品である。(ただし、第3作監督は森崎東、第4作監督は小林俊一。また、1996年に渥美清が死去した翌年の1997年には特別編、2019年には過去の作品映像を活用した第50作が公開されている。)

周知のとおり、『男はつらいよ』という作品は、主人公が第1作から第48作まで同一人物によって演じられた映画としてギネスブックに登録されている作品である。そして、渥美清が演じた主人公の車寅次郎だけでなく、妹役のさくら(倍賞千恵子)、その夫である博(前田吟)、おばちゃん(三崎千恵子)、タコ社長(太宰久雄)、源ちゃん(佐藤蛾次郎)、御前様(笠智衆)は、皆同じ俳優が演じ続けている。おいちゃん役は第1作から第8作までが森川信、第9作から第13作までが松村達雄、そして第14作から第48作まで下條正巳が演じている。満男役は第26作までが中村はやと、第27作から第48作まで吉岡秀隆が演じている。

本稿は、『男はつらいよ』という作品にはほぼ毎回レギュラーとして登場する人物について、その人物が起こす笑いについての分類を行い、この作品における笑いの特徴の一端を明らかにするものである。

2. 調査方法

調査の対象とした作品は、講談社「男はつらいよ 寅さん DVD マガジン」シリーズ第1作から第48作までの全48作品である。

調査対象としたレギュラー陣は、車寅次郎(以下、「寅」と略記。)、妹のさくら、おいちゃん、おばちゃん、さくらの夫である博、さくら・博の息子である満男、タコ社長、御前様、源ちゃん、マドンナである。

それ以外の登場人物はすべて「他の人物」に分類した。寅の舎弟である登(津坂匡章/現・秋野太作)、タコ社長の娘あけみ(美保純)、満男の恋人である泉(後藤久美子)は、登場回数が他のレギュラー陣に比べて多くないという理由から、「他の人物」に分類した。

また、作品中モノや道具を使って笑いを取る、いわゆる「物ボケ」のシーンもあり、そのような笑いは「物・道具」として分類した。

次に分類される笑いの種類について説明する。本稿では笑いを次の6種類に分類した。「優越の笑い」、「ズレの笑い」、「放出の笑い」、「言葉の笑い」、「表情・外見の笑い」、「所作・身体の笑い」である。(1) それぞれの笑いについて、その特徴を簡単に説明する。

「優越の笑い」：ある人物の失敗やばかげた言動に接した側が優越感を感じるような笑い。転んで誰かに迷惑をかけて怒られたり、非常識な言い間違いをしたりばかげた勘違いをしたり、などである。誤解のないように確認しておきたいのは、優越感を感じるのは、あくまでも作品の登場人物の言動に接している視聴者の側ということである。

例. 寅が散歩先生の漢文を聞いて英語と勘違いする場面。(第2作)

寅が「封建的」という表現を、誤って「フウケンテキ」と言う。(第6作)

民夫がデート中に、喫茶店で客を店員と間違え「おねえさん、水」と言って、その女性からひどくなじられる。(第35作)

余剰人員が話題になっている場面で、タコ社長が寅のことを「生まれたときから余剰人員」と言ってしまい寅を怒らせる。(第37作)

「ズレの笑い」：秩序・常識・予想・現実からずれた言動に対して、それに接する側が笑う場合。通常であればしない行為をしたり、言行不一致の言動や矛盾した言動をしたり、など。

例. 寅がマドンナの経営する喫茶店に入りたくて、さくらにコーヒーを飲みに行こうと誘い、入店するとマドンナに「さくらがコーヒーを飲みたい」と誘うものだからと言いつつ、(第8作)

寅が、絵描きであるマドンナと喧嘩して散々にマドンナの悪口を言った後、マドンナと仲直りすると「絵を描く人に悪い人は居ねえ」と言う。(第12作)

寅が、人間国宝の陶芸家・加納作次郎の作品をぞんざいに扱う。(第29作)

螢子の父が、寅の写真を見て螢子の恋人と勘違いして「こんなのと付き合っているのか」と驚く。(第30作)

「放出の笑い」：心理的な抑圧や緊張からの解放による笑い。普段口にするのがはばかれる性的あるいは生理的なことに関わる笑い、いわゆる下ネタ。また、強い緊張感がある場面に対して、その緊張感を緩める緊張緩和の笑い。

例. 寅のお決まりの啖呵売に出てくる下ネタ的表現。

マドンナが寅をやり込めて寅が怒って去った後、おいちゃんがマドンナに「胸がスーッとした」と言う。(第15作)

「言葉の笑い」。言語表現の面白さ。ダジャレや言い回しの妙。セリフの内容の面白さ。

例. おいちゃんの「マクラ(枕)」と「サクラ(さくら)」の言い間違い。

散歩先生が寅を評して、「人並みに近い頭」の持ち主と表現する。(第2作)

マドンナが自分の花嫁姿を「タヌキがペンキ塗られた」顔と表現。(第23作)

博がタコ社長について「社長は太っているから、棺桶も並じゃダメ」。(第27作)

寅が旅館の主人を評して「ぼんぼこ狸」と呼ぶ。(第27作)

冒頭の「寅の夢」のシーンで、医師役の源ちゃんがコテコテの関西弁を使う。(第28作)

御前様が寅を評して、「いつだってあれは朦朧^{もうろう}としておる」。(第29作)

「表情・外見の笑い」：特に顔の表情や声の調子の面白さ。見た目の映像の面白さ。

例. 高崎山でのけ者のサル^{サル}の顔が映された後、寅の顔が重ねて映される。(第12作)

寅がいかに嬉しそうな声の調子で「花も嵐も……」と歌う。(第14作)

モノや道具を使った物ボケで、物の動きよりも外見が面白いものは「表情・外見の笑い」にカウントした。

例. タコ社長へのお土産が、タコの干物とタコの鉛筆。(第12作)

冒頭の「寅の夢」のシーンで、お尋ね者のポスターが寅の似顔絵。(第16作)

アメリカ映画 JAWS のパロディである作品冒頭の「寅の夢」のシーンで、寅が乗っているボートの旗にとらやのマークがデザインされている。(第17作)

「所作・身体^{からだ}の笑い」：身体^{からだ}の動きの面白さ。体の動きがダイナミックであったり、瞬間的な動きであったりすることによる面白さ。

例. タコ社長が寅に会いに猛然ととらやに入って来て、物を蹴飛ばしながら階上へと上がっていく。(第6作)

田所先生が忙しくなくタバコを吸いながらだんごを食い、お茶を飲む。(第16作)

満男がベッドで寝ていると、男好きのバイクの男(雪男)に言い寄られ、慌てふためいて逃げ出す。(第42作)

物ボケの笑いで、物の動きが瞬間的であったり大きかったりして面白いものは「所作・身体^{からだ}の動き」にカウントした。

例. 冒頭の「寅の夢」のシーンで、帽子の形をした UFO が、ガタガタ揺れながら飛んで行く。(第21作)

マイケルがさくらにプロポーズするが、断られて悔しがり、拳を机に叩きつけると、帽子がふわりと浮く。(第24作)

ある場面で登場人物が生む笑いは、通常上記の「6つの笑い」のうち、**複数の要素**を持っている。例えば、登場人物が何かを発話してそれが笑いを生む場合、上記の分類でいえば「言葉の笑い」、「ズレの笑い」、「表情の笑い」の要素を含んでいる可能性があるだろう。発話する人物の表情には身体的要素も含まれるから、「所作・身体^{からだ}の笑い」という要素も加わるかもしれない。しかしながらその1つの笑いがどの要素をどの程度含んでいるかを厳密に測定するのはおそらく不可能であろう。つまり、1つの笑いに含まれるそれらの要素の割合を測定することなど、できることではないだろう。

以上のことから、本来複数の要素を含んでいる1つの笑いに関して、その笑いに含まれる要素を全て数え上げることはせず、**もっとも特徴的と思われる要素のみをカウント**することとする。すなわち、登場人物が1つの笑いを引き起こす場合、それに相応する笑いの種類は1つだけとする。

例えば、登場人物が「ズッコける」ことによって笑いが生じる場合を考えてみよう。純粹にその仕草が面白い場合は「所作・身体^{からだ}の笑い」に、馬鹿さ加減が前面に出て失敗感が強い場合は「優越の笑い」に、緊張緩和の要素が強い場合は「放出の笑い」に分類することとする。

また、登場人物の言動にズレがあったとしても、それが必ずしも笑いを誘うとは限らない場合がある。例えば、見ている側が登場人物に共感し感情移入していて、登場人物に強い哀れみを感じているような場面でズレた言動が起こっていたとしても、見ている側は笑うことはないので、笑いの数にはカウントしていない。つまり笑いが生じるのは、そこに愉快さを感じ取れる場合であって、他の感情が強く優位な場合に人間は笑わないため、そのような言動に対しては笑いとしてカウントしていない。(2)

複数の登場人物がほぼ対等にやりあって笑いを生む場合、それぞれの人物に笑いの数をカウントした。例えば寅と源ちゃんが対等にふざけあっているような場合、それぞれにカウントした。

またある登場人物が誰かの言葉を引用して笑いを誘うような場合、発話した人物のほうにカウントした。例えばマドンナが寅の言葉を引用して笑いを誘う場合は、寅ではなくマドンナにカウントした。

3.調査結果

まず全 48 作で各登場人物が生んだ笑いの種類と総数を示す。表 1 は、登場人物別の笑いの種類と笑いの総数、全体に占める割合を表している。そのうち、総数を表すグラフが図 1、割合を表すグラフが図 2 である。

表 1 全 48 作における登場人物別の笑い

人物	笑いの種類						合計数	割合(合計数)
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体		
寅	213	273	119	616	530	448	2199	58%(2199)
さくら	2	4	2	25	13	17	63	2%(63)
おいちゃん	7	16	5	79	48	47	202	5%(202)
おばちゃん	14	20	0	70	22	26	152	4%(152)
博	4	16	3	28	25	18	94	2%(94)
満男	3	18	4	38	25	34	122	3%(122)
タコ社長	40	17	5	28	39	31	160	4%(160)
御前様	1	5	0	17	6	6	35	1%(35)
源ちゃん	10	8	0	7	36	70	131	3%(131)
マドンナ	2	8	2	25	7	5	49	1%(49)
他の人物	29	97	19	138	118	177	578	15%(578)
物・道具	2	10	0	4	11	12	39	1%(39)
合計	327	492	159	1075	880	891	3824	99%*(3824)

* 割合は小数点以下を四捨五入した数値であるため、合計が必ずしも100%にならない場合がある。(以下同様)

寅が全ての笑いの約 6 割を生んでおり、やはりこの作品は渥美清の才能に依るところが大きく、表現力豊かな演技で様々な笑いを取る渥美清の才能の高さが確認できる結果となっている。次に多いのが、レギュラー陣ではない「他の人物」であり、レギュラー陣では、おいちゃんの 5%、おばちゃんとタコ社長の 4%、満男と源ちゃんの 3%と続く。

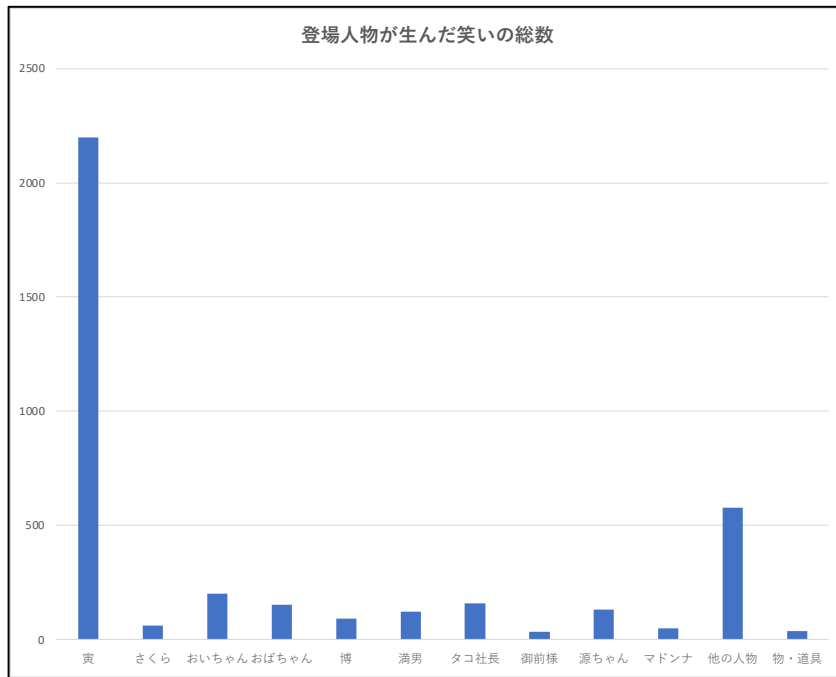


図1 登場人物が生んだ笑いの総数

基本的に、おいちゃん、おばちゃん、さくら、博は常識的・良識的な人物であり、寅の常識から外れた言動に対して、常識的立場から正すという役割を果たす。漫才で言えば、寅のボケに対してツッコミ的役割を果たす。

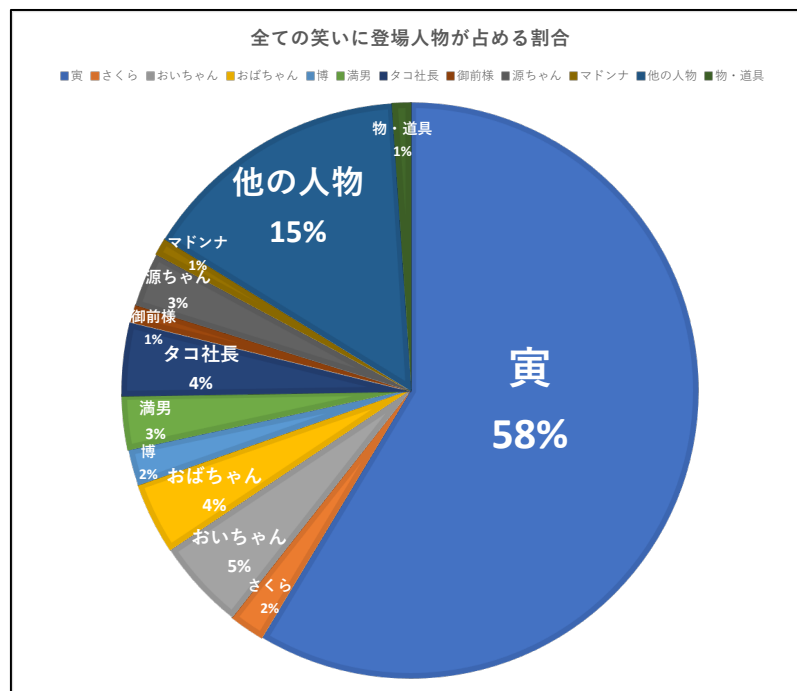


図2 全ての笑いに登場人物が占める割合

「他の人物」が多く笑いを生んでいる理由としては、ゲスト出演している名優たちが、寅との掛け合いで多くの笑いを生んでいるためである。寅が稼業の露天商のために全国を旅

し、その旅先で出会った人物やそれに縁のある人物と様々な交流をする中で笑いが生み出されている。

次に、全作品の全ての笑いにおいて6つの笑いが占める割合を示したグラフが図3である。

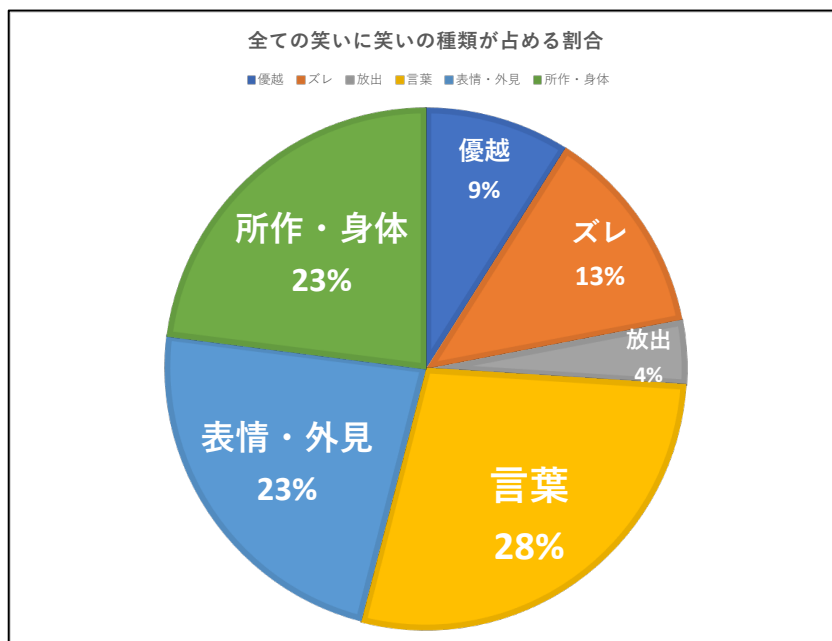


図3 全ての笑いにおいて笑いの種類が占める割合

全ての笑いにおいて、笑いの種類が占める割合について述べると、「言葉の笑い」が最も多く28%、次に「表情・外見の笑い」と「所作・身体の笑い」がともに23%と続き、「放出の笑い」が4%と最も少ない結果となった。

笑いには何らかのズレの要素があると考えれば、「ズレの笑い」の数値がもっと高くてよいと思われるかもしれない。「ズレの笑い」が13%になった理由は次の2つである。1. 確かにズレも含んではいるが、言葉の表現・言い回し、表情・見た目、身体的な動きなどのほうが特徴的で面白い場合には「言葉の笑い」、「表情・外見の笑い」、「所作・身体の笑い」のほうにカウントしたこと、2. 「ズレの笑い」を、ストーリーの展開で登場人物が強く感じさせる言動のズレや言行不一致の言動・矛盾した言動という点に焦点をあててカウントしたこと、である。

次に登場人物別に、第1作から第48作までの「笑いの種類」の数を示す。

寅

寅が生む笑いについて、全48作品における笑いの種類とその数を示したのが表2である。その数の推移を示したグラフが図4であり、6つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図5である。(なお、全48作品における全ての登場人物別の笑いの種類とその数を示した表については、本稿の末尾に参考資料として添付している。)

表2 全48作の笑いの種類(寅)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作	2	10	12	5	10	15	54
第2作	4	9	5	9	22	17	66
第3作	8	15	4	12	11	9	59
第4作	6	18	4	14	18	13	73
第5作	3	3	4	16	19	10	55
第6作	11	6	4	19	15	12	67
第7作	6	15	4	17	13	11	66
第8作	12	10	4	20	10	15	71
第9作	5	10	4	21	10	20	70
第10作	6	7	8	17	7	10	55
第11作	6	7	2	18	15	9	57
第12作	4	4	2	25	12	10	57
第13作	7	5		12	5	10	39
第14作	8	9	2	18	11	6	54
第15作	1	2	2	12	13	4	34
第16作	7	12	3	22	19	10	73
第17作	7	7		9	9	11	43
第18作	5	6		19	6	9	45
第19作	3	10	2	18	13	9	55
第20作	3	6	2	8	14	12	45
第21作	5	7	2	7	5	12	38
第22作	8	3		14	17	14	56
第23作	9	10	4	9	12	10	54
第24作	2	5		18	12	12	49
第25作	2	2	1	6	3	13	27
第26作	11	7		8	13	9	48
第27作	3	1	1	11	8	10	34
第28作	7	5	2	7	9	7	37
第29作	1	9	3	3	12	5	33
第30作	1	7	3	8	11	7	37
第31作		7	1	12	10	7	37
第32作	6	6	1	12	15	13	53
第33作		1		5	10	6	22
第34作	6	3	1	11	18	7	46
第35作		3	4	16	12	12	47
第36作	1	4	6	6	14	7	38
第37作	3	4	1	13	7	7	35
第38作	5	7	7	13	9	8	49
第39作	4	1	3	16	7	7	38
第40作	6	3	4	27	20	8	68
第41作	7	2	3	27	10	8	57
第42作	4	2		13	4	6	29
第43作	3	2	1	18	8	6	38
第44作				3	6	2	11
第45作	3			9	6	9	27
第46作	1	1	1	4	8	7	22
第47作			1	4	3	2	10
第48作	1		1	5	9	5	21
合計	213	273	119	616	530	448	2199

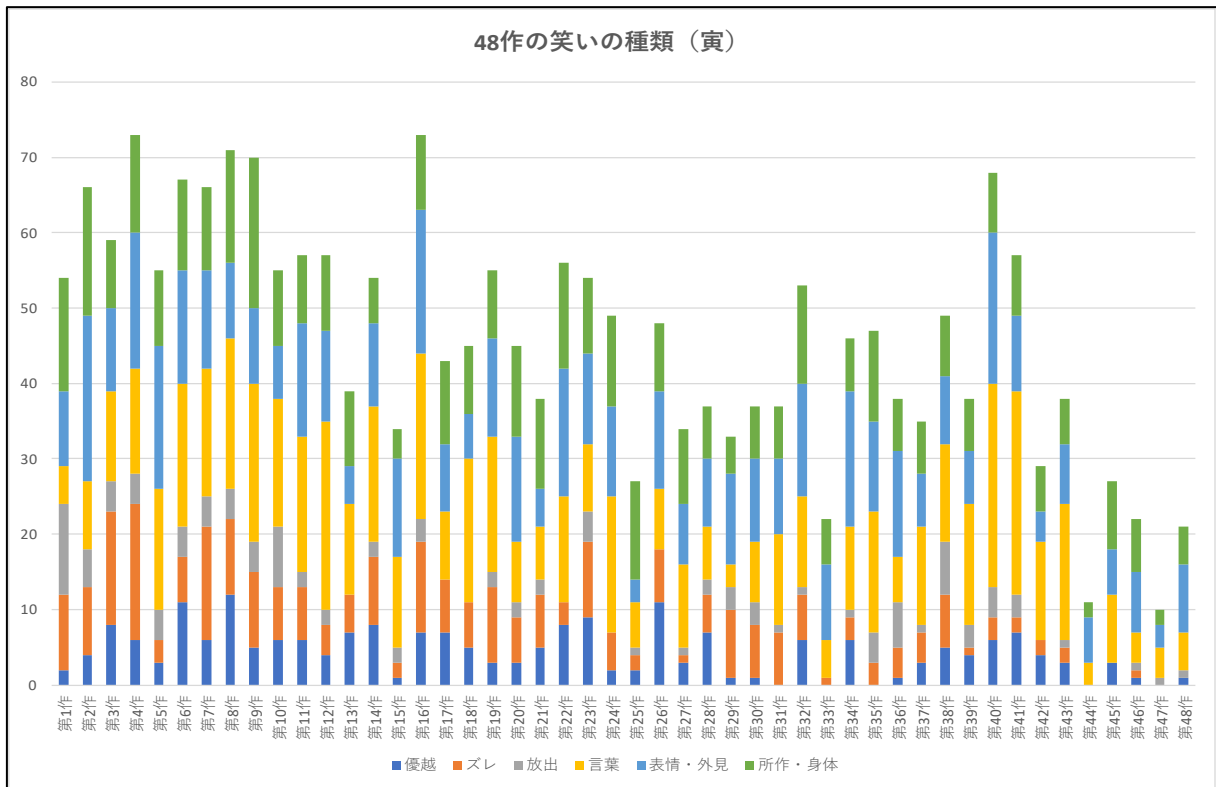


図4 全48作の笑いの種類 (寅)

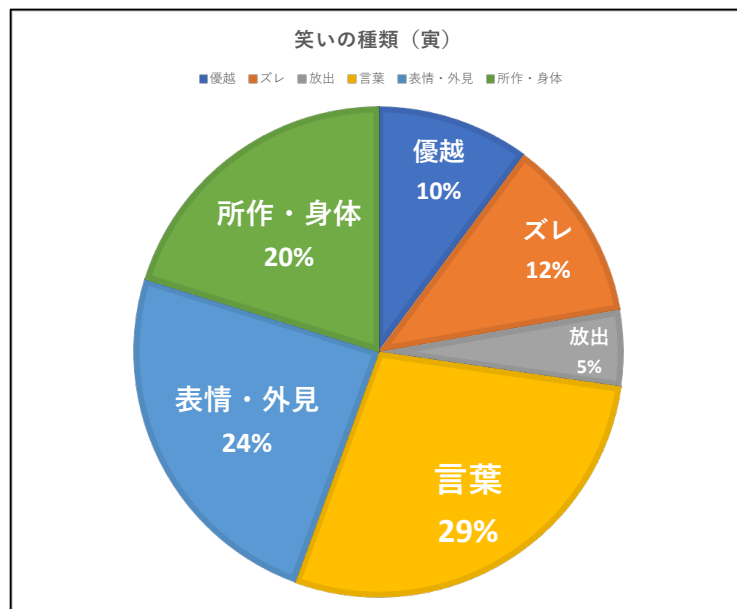


図5 全48作の笑いの種類 (寅)

名優渥美清による寅の演技は、言い回しも表情も身振りも全てが面白い。一般に発話の面白さというのは、話の内容はもちろんのこと、話し手の顔の表情、声のトーン、体の動きなどの要素が複雑に絡み合って生まれるものである。「言葉の笑い」、「表情・外見の笑い」、「所作・身体笑い」それぞれで多くの笑いを生み出すことができる渥美清は、それらの全てを見事に融合させて演じることができる稀有な俳優である。寅の啖呵売やいわゆる茶の間のアリアはその典型である。

また寅が使う言葉の面白さの1つとして、**擬音語や擬態語**の多用が挙げられる。例えば、博の父と話している寅が「誰が故郷を思わざる……ペコペーンポンポン……」と陽気に歌うシーン(第8作)、寅が食事している博に向かって「ボクボク茄子ばかり食ってないで」(第9作)、寅がさくらのことを「大口開いてゲタゲタ笑ってたよ」(第10作)、寅が岡倉先生のことを「さっきからたくあんをポリポリと食ってるけど」(第10作)、寅がさくらや博に向かって「パカーッと口開いてあほみたいに」(第12作)、寅がマンドナの家庭の食事風景を評して「チンチロリン、……ポリポリ、……」(第18作)、寅がさくらのことを「この間まで裸足でピタピタ歩いてた」(第34作)などなど。

さくら

さくらが生む笑いについて、全48作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図6であり、6つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図7である。

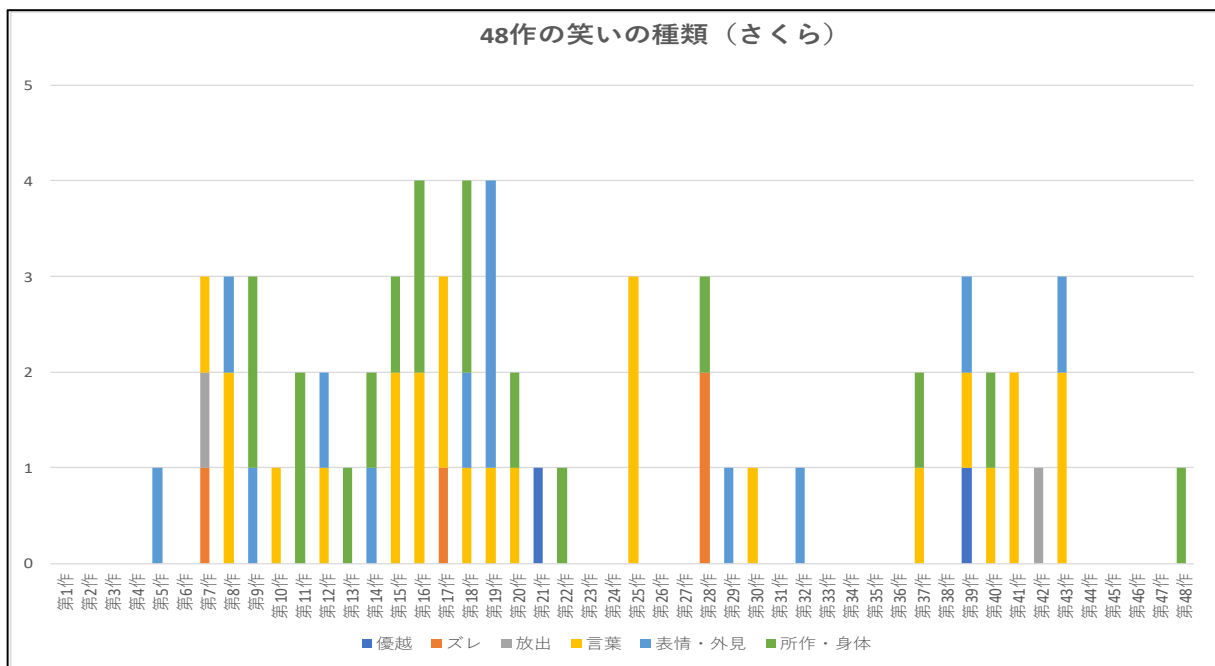


図6 全48作の笑いの種類 (さくら)

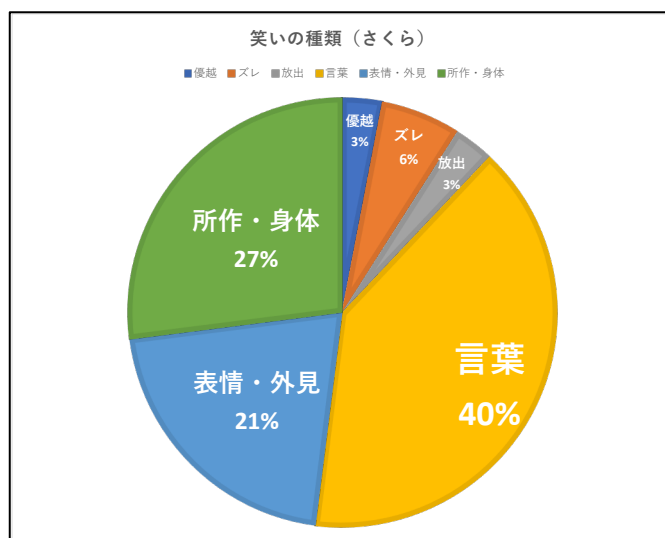


図7 全48作の笑いの種類 (さくら)

さくらは全作品を通じた笑いの総数が 63 と少ないが、さくらは笑いを生むキャラクターとして設定されているわけではなく、寅の非常識さや逸脱をたしなめる良識人としての役割を担い、時には寅に諄々と言って聞かせる母親のような役割を担っているため、笑いを生む数が少ないのは当然の結果である。

笑いの種類は、言葉を使って笑いを生んでいる割合が 40%と高いことがわかった。

おいちゃん

おいちゃんが生む笑いについて、全 48 作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図 8 であり、6つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図 9 である。

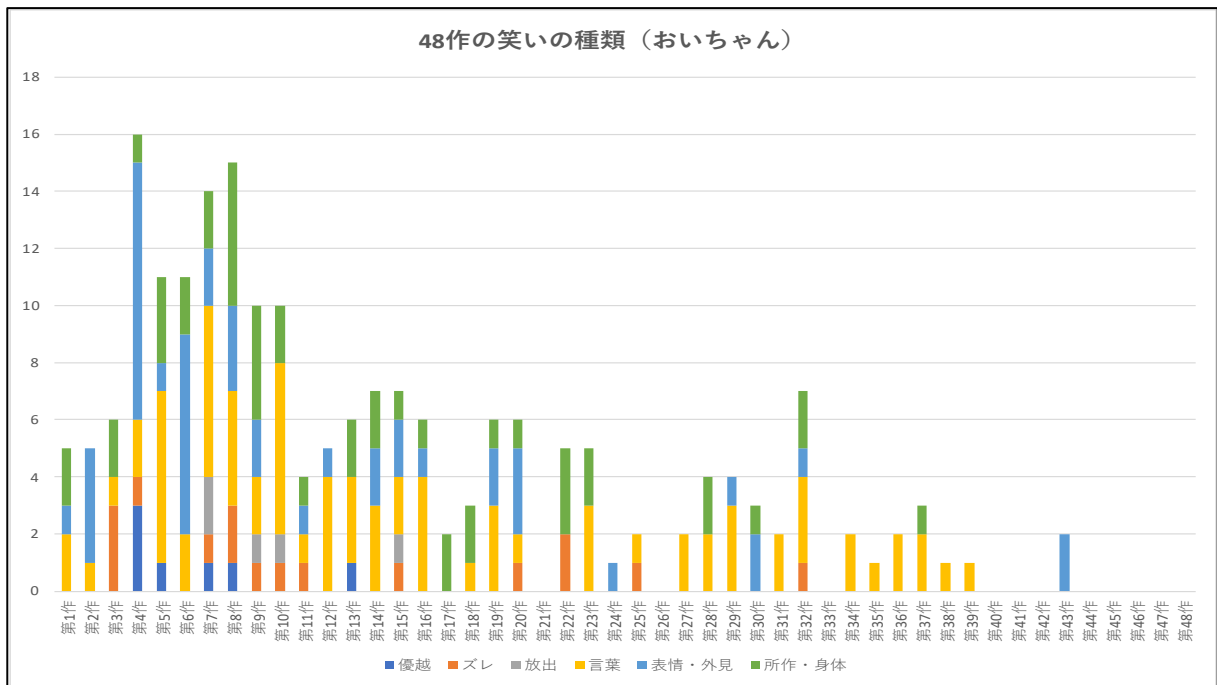


図 8 全 48 作の笑いの種類 (おいちゃん)

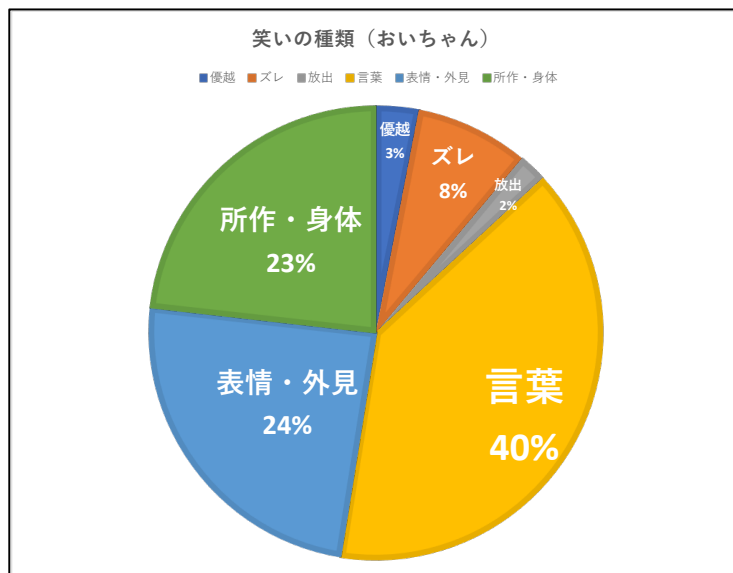


図 9 全 48 作の笑いの種類 (おいちゃん)

第8作までは喜劇俳優の森川信がおいちゃん役を務めていて、おいちゃん役を演じた他の俳優に比べて多くの種類の笑いを生んでいることがわかる。特に「優越の笑い」については、そのほとんどが森川演じるおいちゃんのとときに生み出されている。

笑いの種類では、「言葉の笑い」が40%と最も多い。下條正巳がおいちゃん役を演じるようになった第14作以降も、「言葉の笑い」は生み続けていることがわかる。

おばちゃん

おばちゃんが生む笑いについて、全48作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図10であり、6つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図11である。

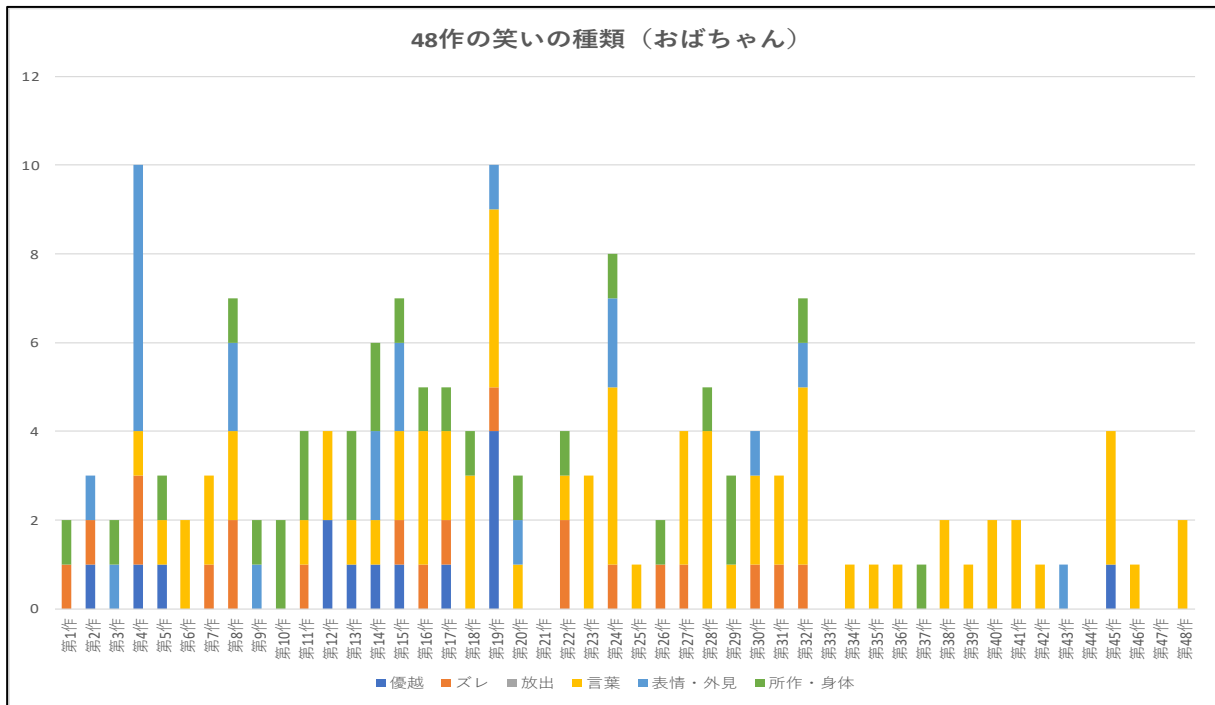


図10 全48作の笑いの種類 (おばちゃん)

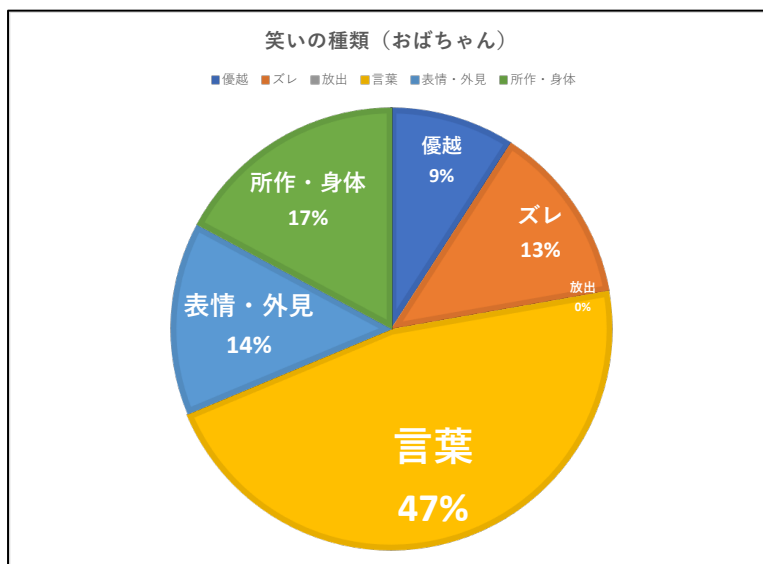


図11 全48作の笑いの種類 (おばちゃん)

おばちゃんが生む笑いは、「言葉の笑い」が47%と多く、言葉による言い回しの妙で、多くの笑いを発生させていることがわかった。おばちゃん役は、名優の三崎千恵子が最後の第48作まで演じ続けているが、歳を重ねても絶妙な演技でセリフを発して笑いを生み続けている。

博

博が生む笑いについて、全48作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図12であり、6つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図13である。

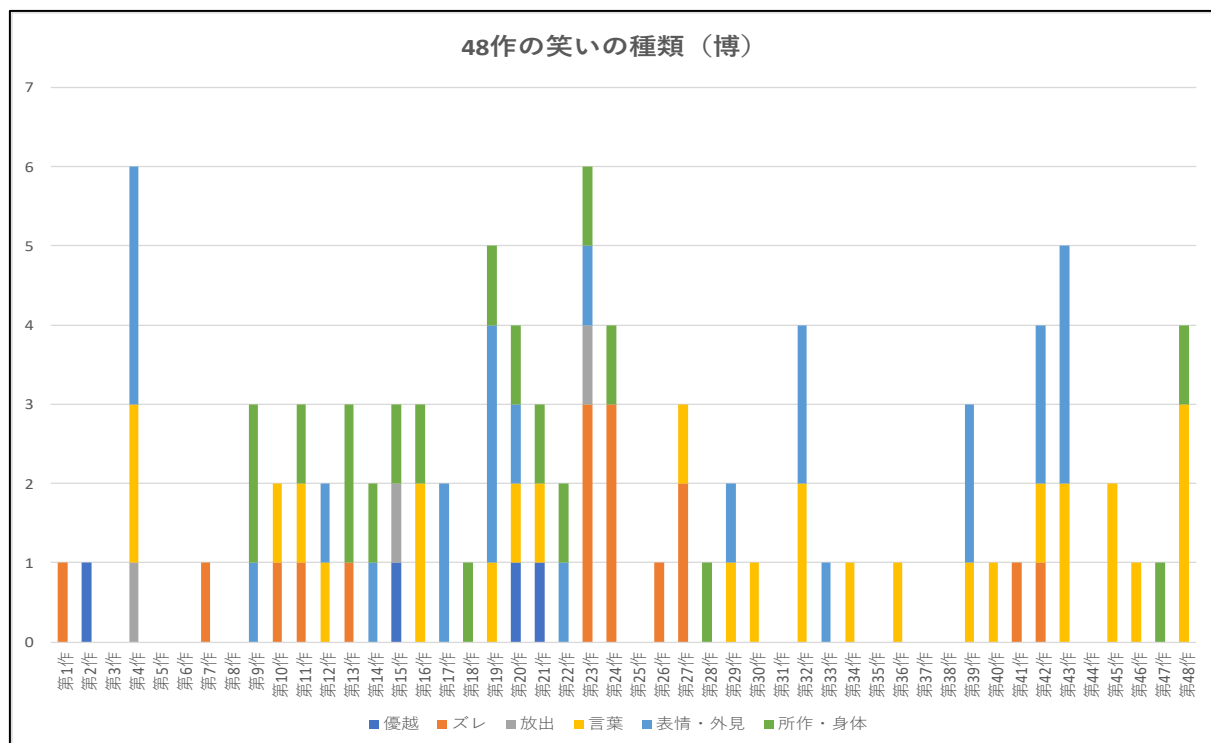


図12 全48作の笑いの種類 (博)

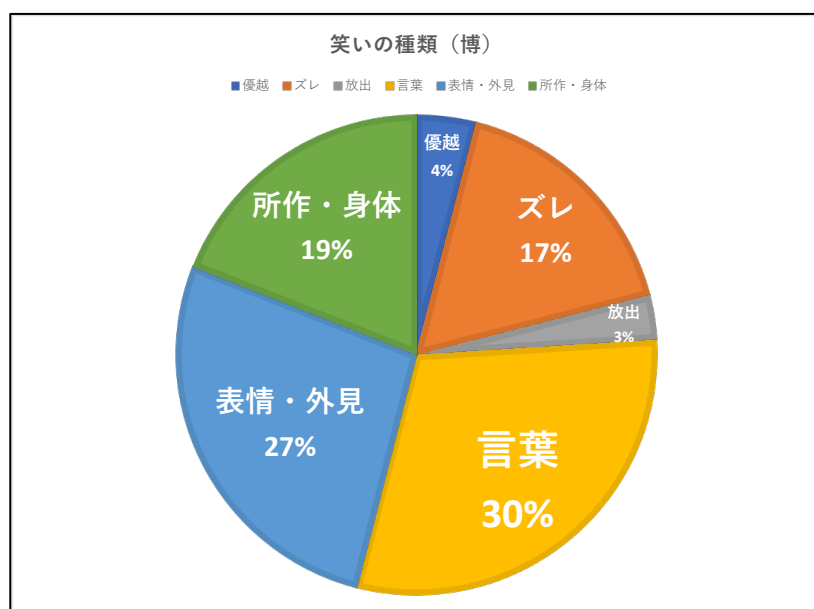


図13 全48作の笑いの種類 (博)

全作品の笑いの総数は94と決して多くないが、真面目で良識的な博ならではの絶妙な笑いを随所で生んでいる。笑いの種類も、「言葉の笑い」のほかに、表情や身体的な動きによる笑いも多く、演じている前田吟の芸の幅の広さを感じさせる結果である。特に笑いを多く生んでいた第4作では、作品の舞台が主に柴又のとらやに限定されていたため博の出演機会が多かった。また第23作では、マドンナ入江ひとみ（桃井かおり）をめぐる寅とのやり取りで多くの笑いを生んでいる。

満男

満男が生む笑いについて、全48作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図14であり、6つの笑いの種類の割合を表すグラフが図15である。

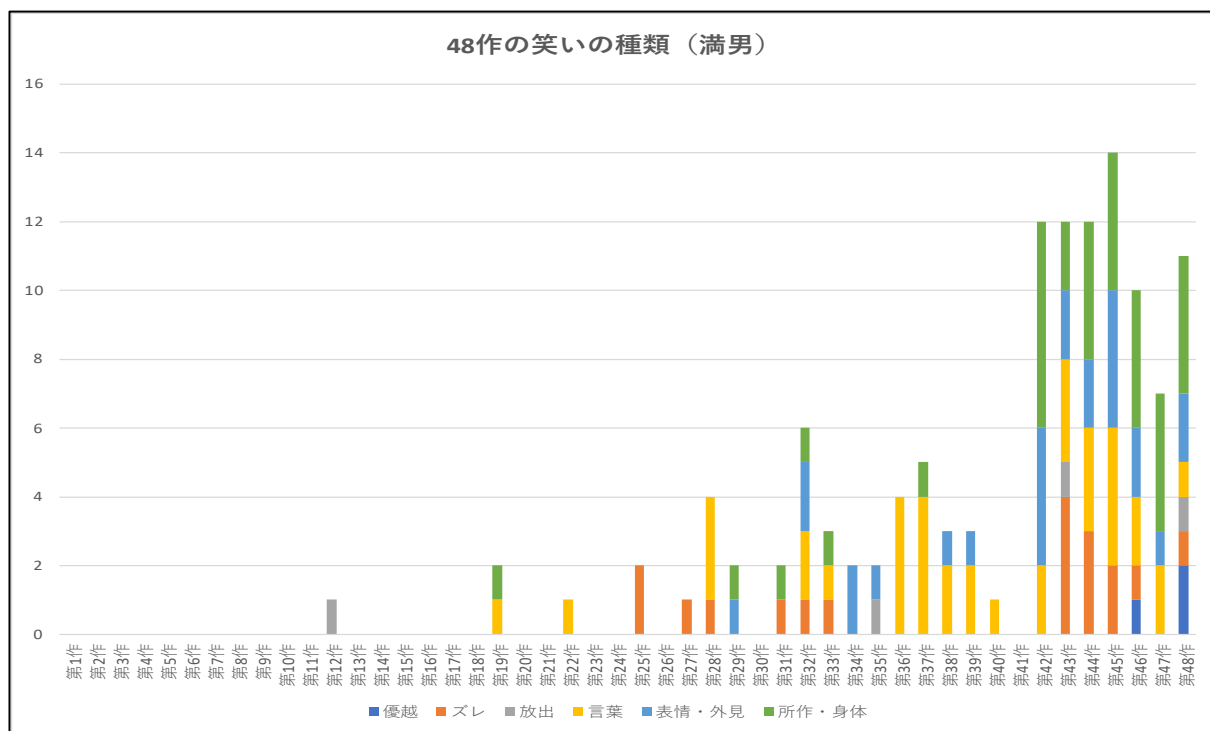


図14 全48作の笑いの種類 (満男)

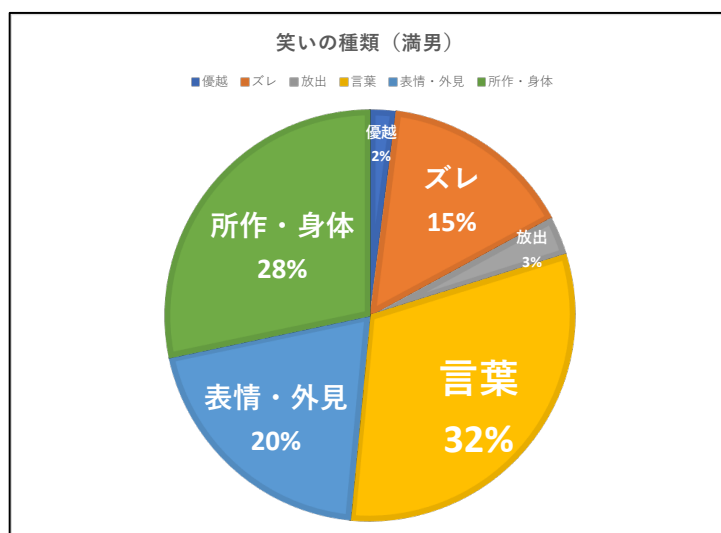


図15 全48作の笑いの種類 (満男)

満男については、第 27 作以降登場する俳優吉岡秀隆の成長とともに、作品に占める満男の重要度が増すにつれて笑いの数も上昇していく。「所作・身体」の占める割合が 28% と高いのは、若さゆえの澁刺とした動きの多さによるものである。

タコ社長

タコ社長が生む笑いについて、全 48 作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図 16 であり、6 つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図 17 である。

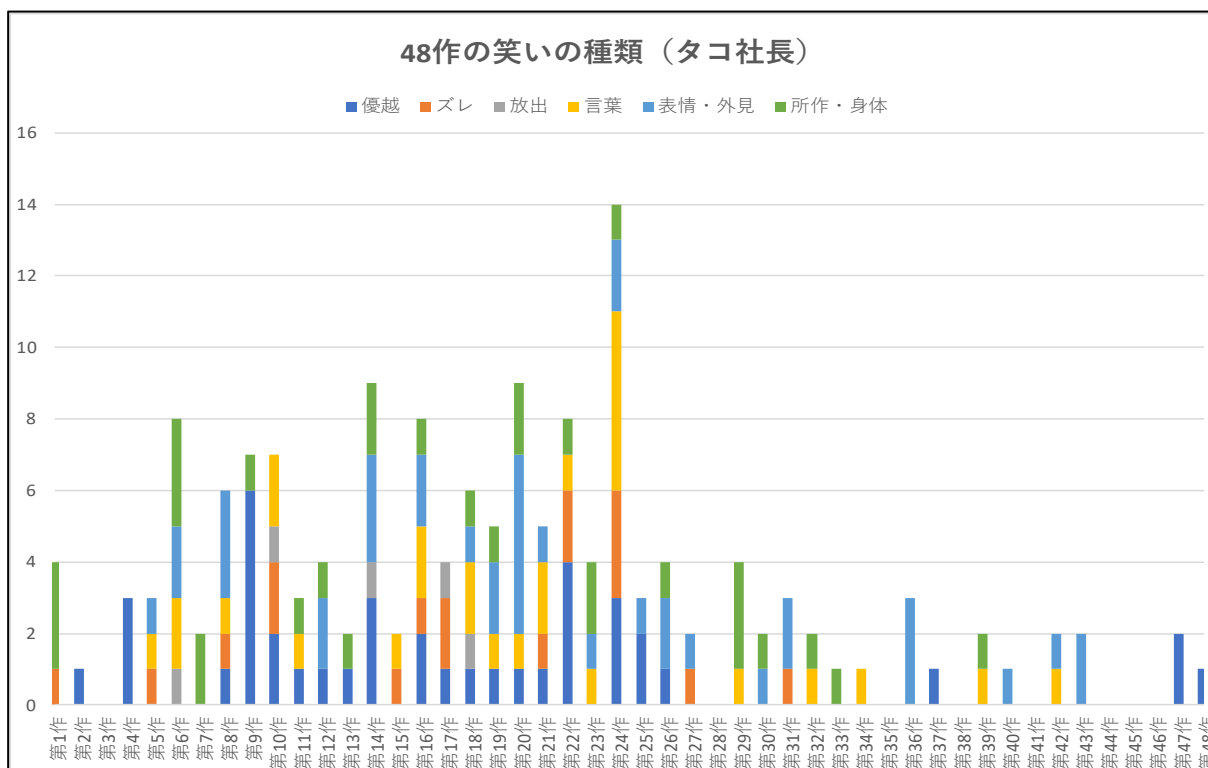


図 16 全 48 作の笑いの種類 (タコ社長)

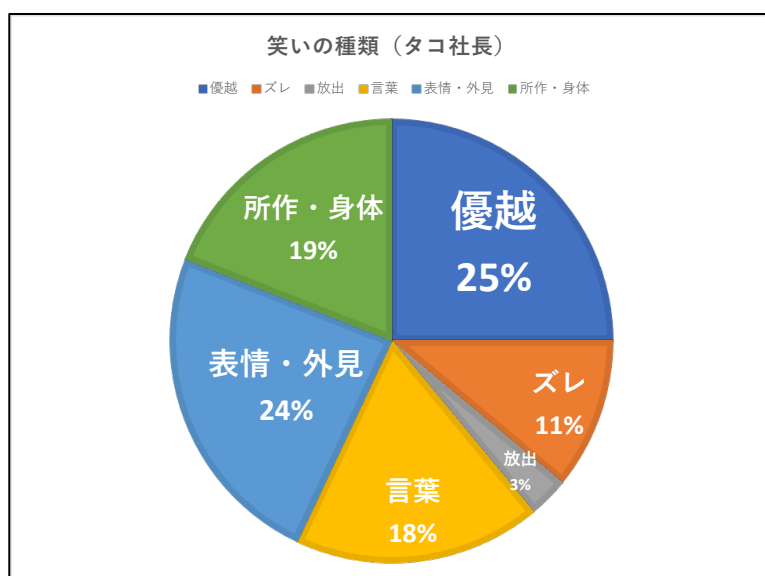


図 17 全 48 作の笑いの種類 (タコ社長)

タコ社長が生む笑いで特徴的なのは、「優越の笑い」が25%と最も多いことである。タコ社長はとらやにやって来ては、寅の心情を逆撫するような言動で寅と喧嘩になる。タコ社長の空気を読まない場違いの言動が、見ている側には、「また馬鹿なことを言ってしまった」と思わせ、「優越の笑い」が多くなることにつながっている。第24作で笑いの総数が多いのは、当時のニュースで動物の虎が脱走したという時事ネタに関わる笑いや、アメリカ人のマイケルが登場する作品であるため英語を用いた冗談が多く見られたことによる。

御前様

御前様が生む笑いについて、全48作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図18であり、6つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図19である。

御前様については、約半数が「言葉の笑い」である。役柄上激しい動きをするわけではなく、落ち着いた雰囲気面白いことを静かに語るのが特徴である。

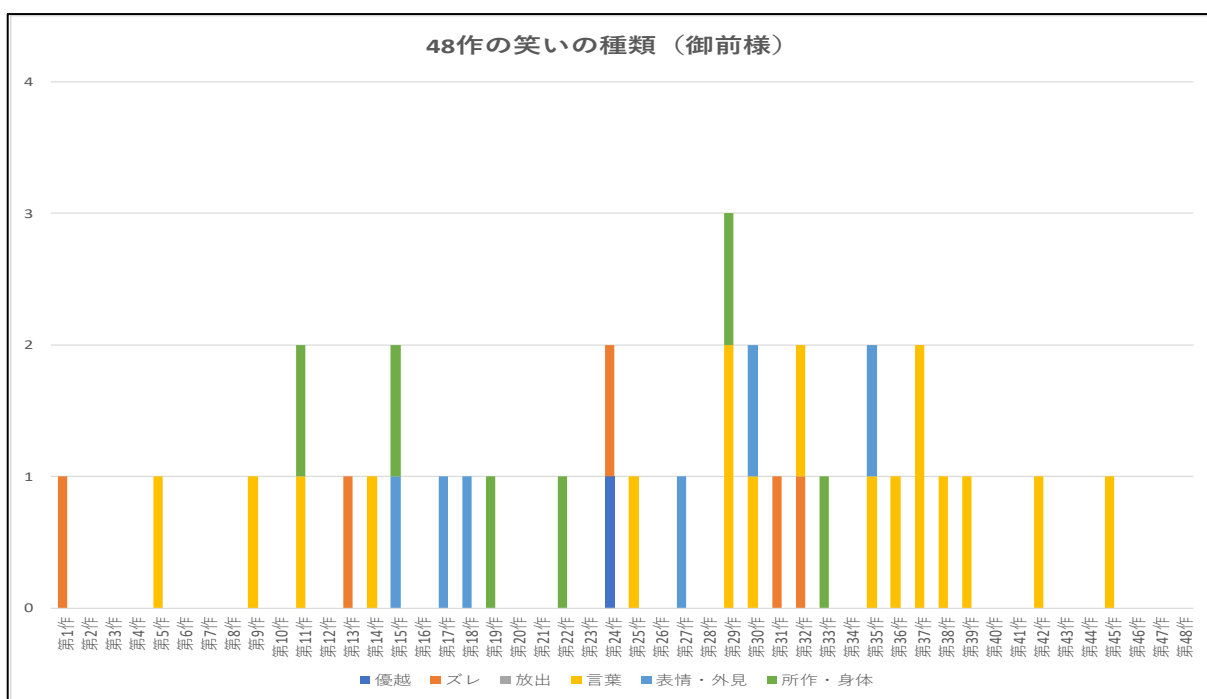


図18 全48作の笑いの種類 (御前様)

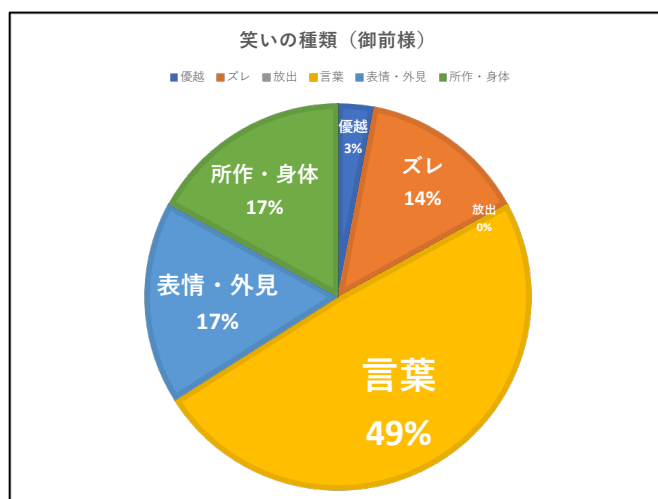


図19 全48作の笑いの種類 (御前様)

源ちゃん

源ちゃんが生む笑いについて、全 48 作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図 20 であり、6 つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図 21 である。

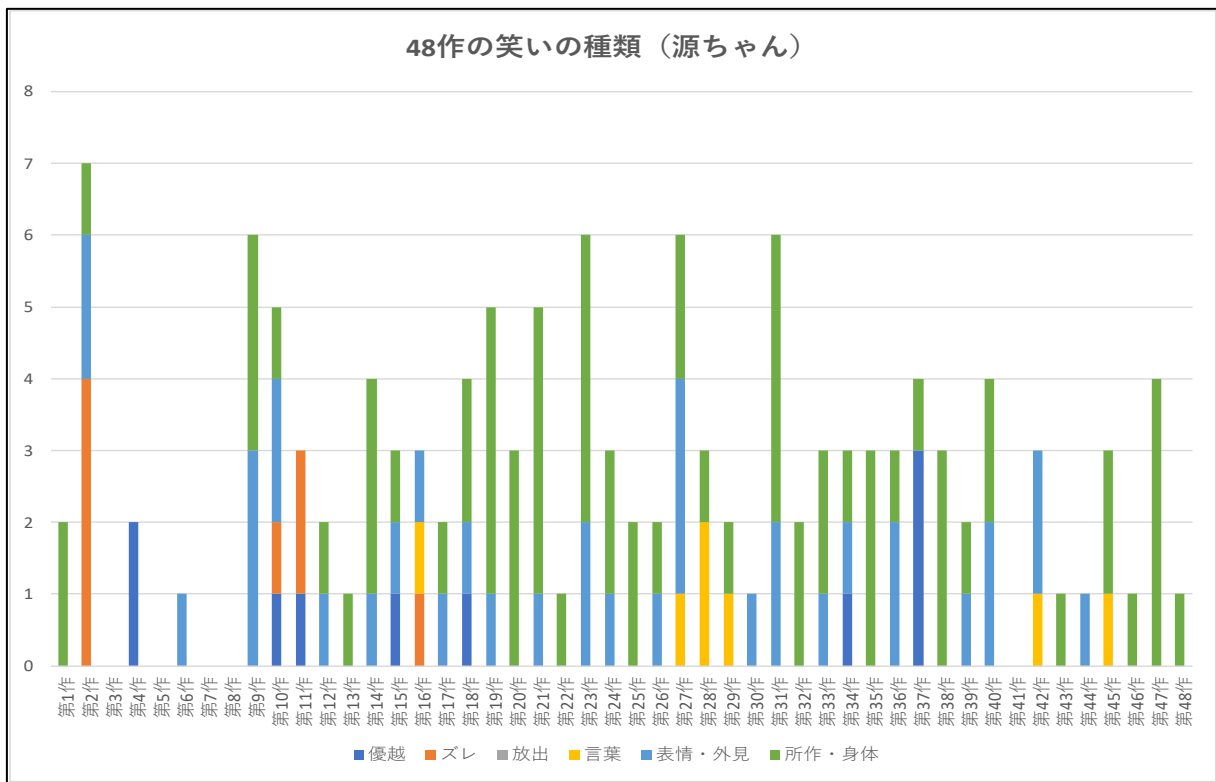


図 20 全 48 作の笑いの種類 (源ちゃん)

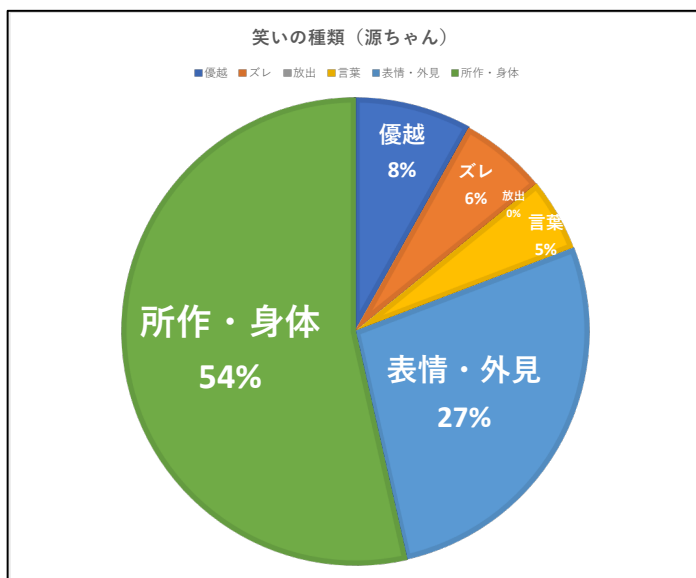


図 21 全 48 作の笑いの種類 (源ちゃん)

源ちゃんが生む笑いの特徴的なのは、「所作・身体の笑い」が圧倒的に多い代わりに、「言葉の笑い」が極端に少ない点である。作品では源ちゃんは基本的に黙っていることが多く、体を動かす動的な笑いを生んだり、誰かを見て笑ったりしているシーンが多い。第 2 作では、マドンナの夏子 (佐藤オリエ) をめぐり寅との掛け合いで多くの笑いを生んでいる。

マドンナ

マドンナが生む笑いについて、全 48 作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図 22 であり、6 つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図 23 である。

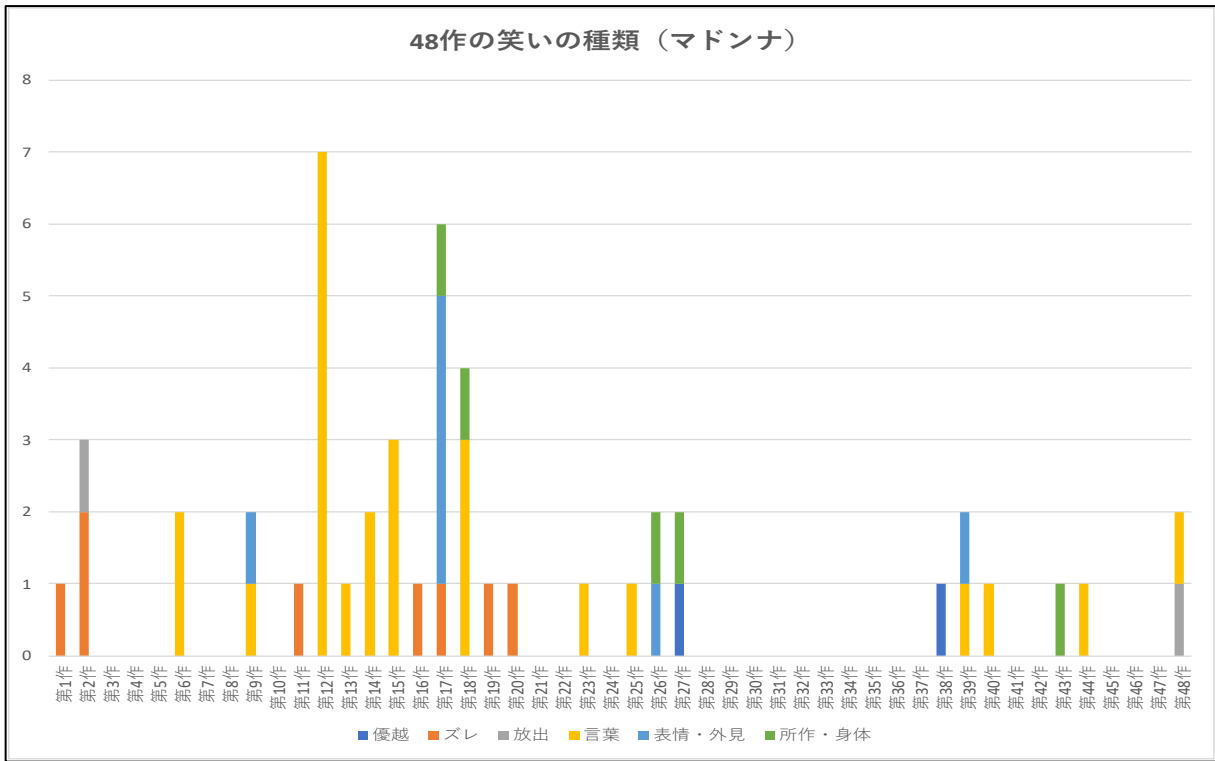


図 22 全 48 作の笑いの種類 (マドンナ)

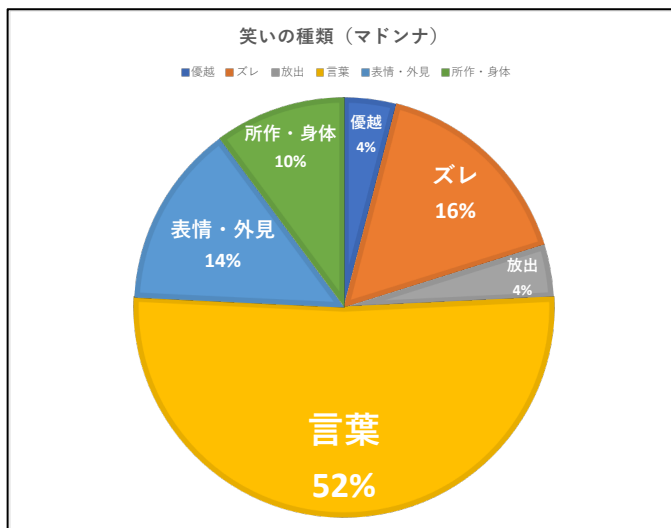


図 23 全 48 作の笑いの種類 (マドンナ)

マドンナは寅に憧れられる存在として登場し、基本的には笑いを生むキャラクターではない。比較的多くの笑いをとっている第 12 作では、マドンナ役である画家のりつ子(岸恵子)が寅と丁々発止の口喧嘩を展開するため、笑いの数が増えている。また、第 17 作では芸者ぼたん役の太地喜和子が明るいキャラクターで寅と冗談を言い合うため笑いの数が多い。マドンナにおける笑いの種類では、「言葉の笑い」が 52%と圧倒的に多い。

他の人物

「他の人物」が生む笑いについて、全 48 作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図 24 であり、6 つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図 25 である。

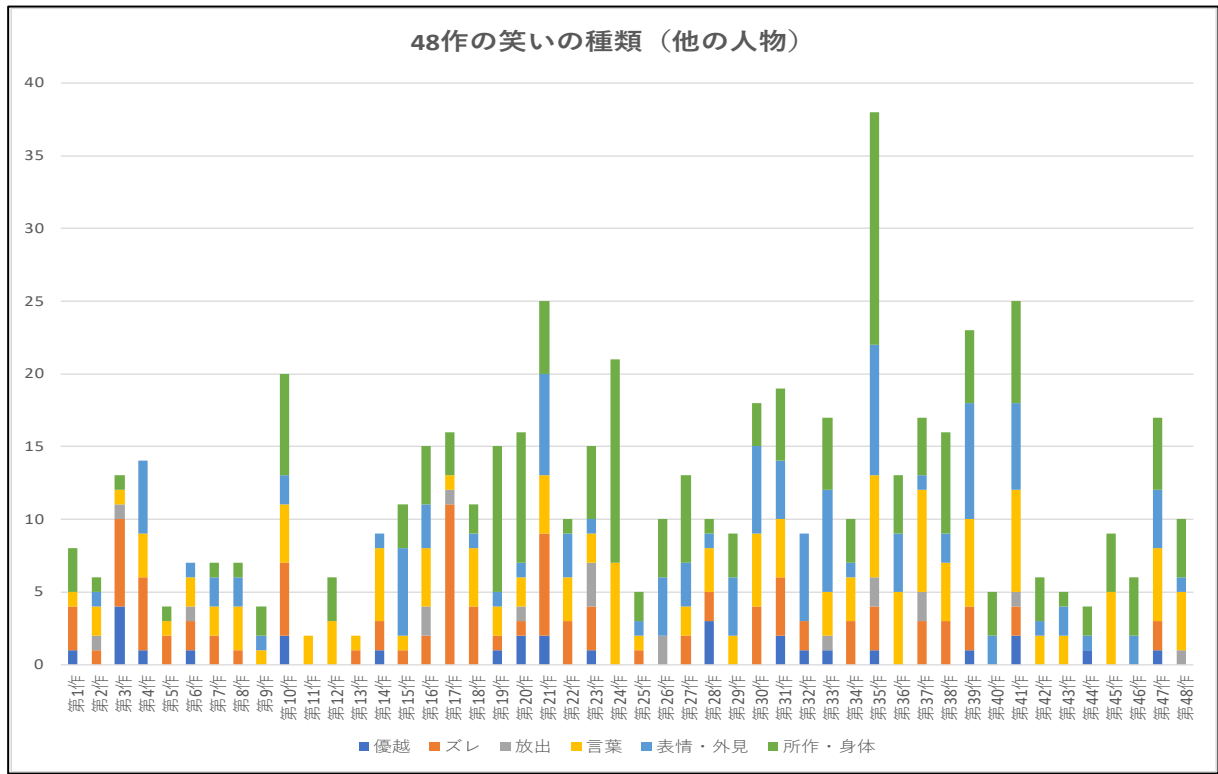


図 24 全 48 作の笑いの種類 (他の人物)

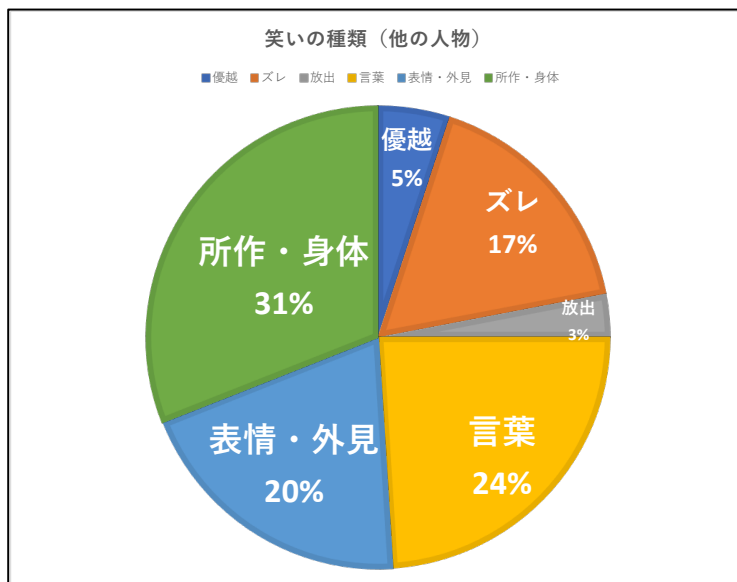


図 25 全 48 作の笑いの種類 (他の人物)

「他の人物」が生む笑いの特徴的なのは、「ズレの笑い」、「言葉の笑い」、「表情・外見の笑い」、「所作・身体」の割合が大きく偏ることなく、バランスよく見られることである。

「他の人物」が特に多くの笑いを生んでいる回は、第 10 作、第 21 作、第 24 作、第 35 作、第 39 作、第 41 作である(笑いの数 20 回以上の作品)。第 10 作は岡倉金之助役の米倉

齊加年、第 21 作は後藤留吉役の武田鉄矢、第 24 作はマイケル・ジョーダン役のハーブ・エデルマン、第 35 作は酒田民夫役の平田満、第 39 作は宿屋のパート役の正司敏江、医者役の松村達雄、旅館の主人役の笹野高史、第 41 作は坂口兵馬役の柄本明が多くの笑いを生み出している。

物・道具

「物・道具」が生む笑いについて、全 48 作品における笑いの種類とその数の推移を示したグラフが図 26 であり、6 つの笑いの種類が占める割合を表すグラフが図 27 である。

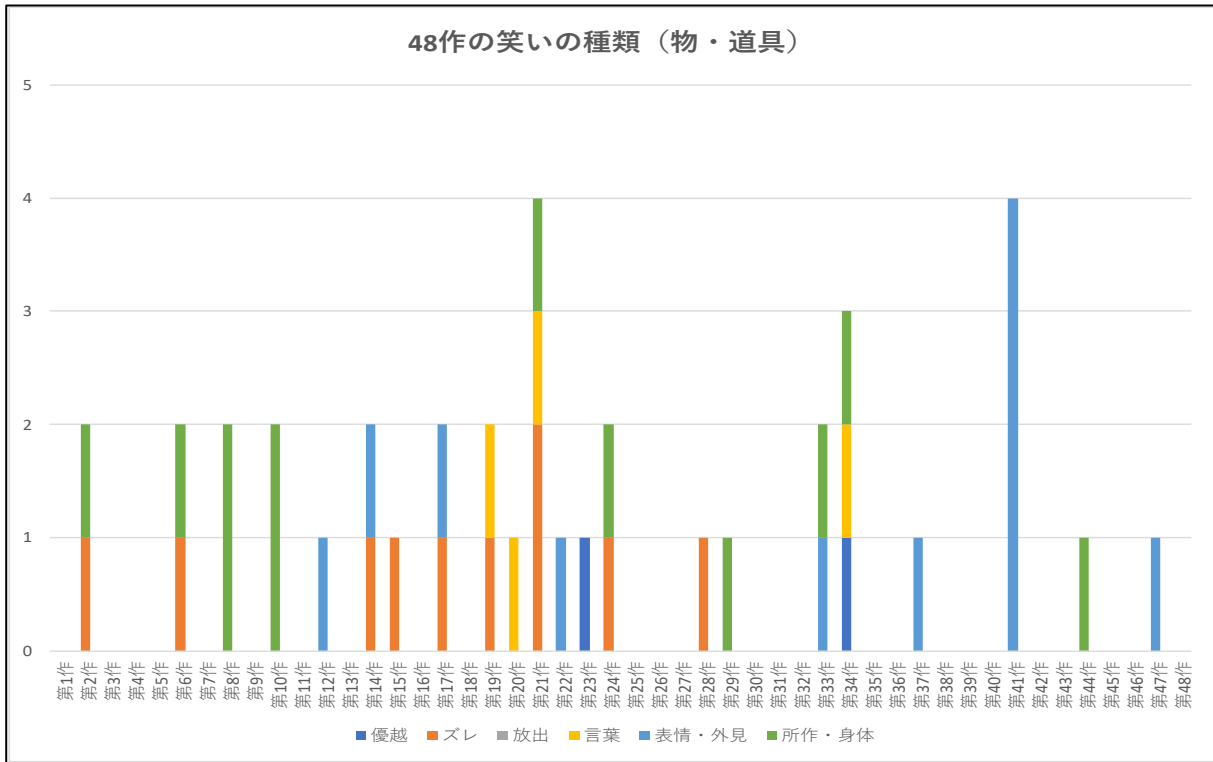


図 26 全 48 作の笑いの種類 (物・道具)

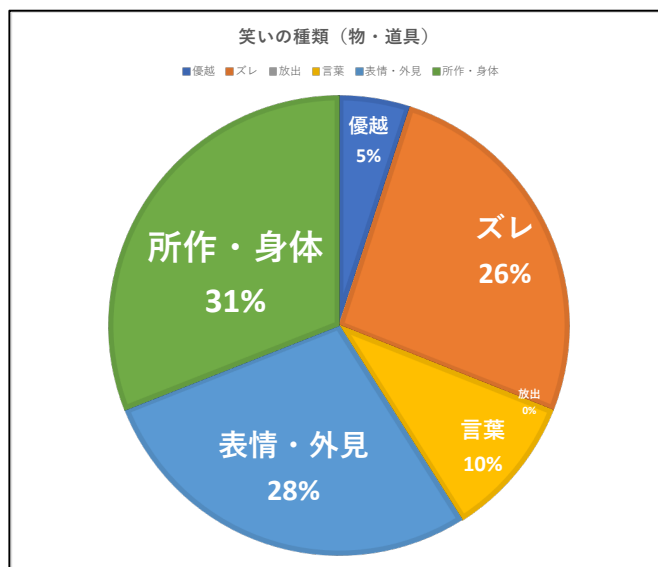


図 27 全 48 作の笑いの種類 (物・道具)

「物・道具」の笑いについては、特に物の動きが笑いを生む場合は「所作・身体の笑い」に、画像の面白さが笑いを生んでいる場合は「表情・外見の笑い」に分類している。

「言葉の笑い」に分類されているものは、例えば第 19 作で題経寺の門前に寅が尋ね人の大きな貼り紙を貼った後に、これもまた大きな“無断貼り紙禁ず”の貼り紙が映される場面。第 20 作で、失恋したと思いついでいる良介のいるとらやの 2 階に貼られた“この男は失恋中につき……”の貼り紙。第 34 作で「寅の夢」のシーンで、怪獣が「トラさ〜ん」と言いながら倒れていく場面などである。

第 41 作で「表情・外見の笑い」が多くカウントされているのは、坂口兵馬（柄本明）が鉄道自殺を図ろうとした背景で登場する、能天気な雰囲気を出す宣伝カーの面白さを、見た目の面白さとして扱いカウントしたためである。

次に 6 つの「笑いの種類」別のデータを示す。

優越の笑い

全 48 作における「優越の笑い」について、人物別の総数と割合を示したのが表 3 である。そのうち総数を示すグラフが図 28 であり、割合を示したグラフが図 29 である。

表 3 全 48 作の優越の笑い（総数）

人物	総数	割合（総数）
寅	213	65%(213)
さくら	2	1%(2)
おいちゃん	7	2%(7)
おばちゃん	14	4%(14)
博	4	1%(4)
満男	3	1%(3)
タコ社長	40	12%(40)
御前様	1	0%(1)
源ちゃん	10	3%(10)
マドンナ	2	1%(2)
他の人物	29	9%(29)
物・道具	2	1%(2)
合計	327	100%(327)

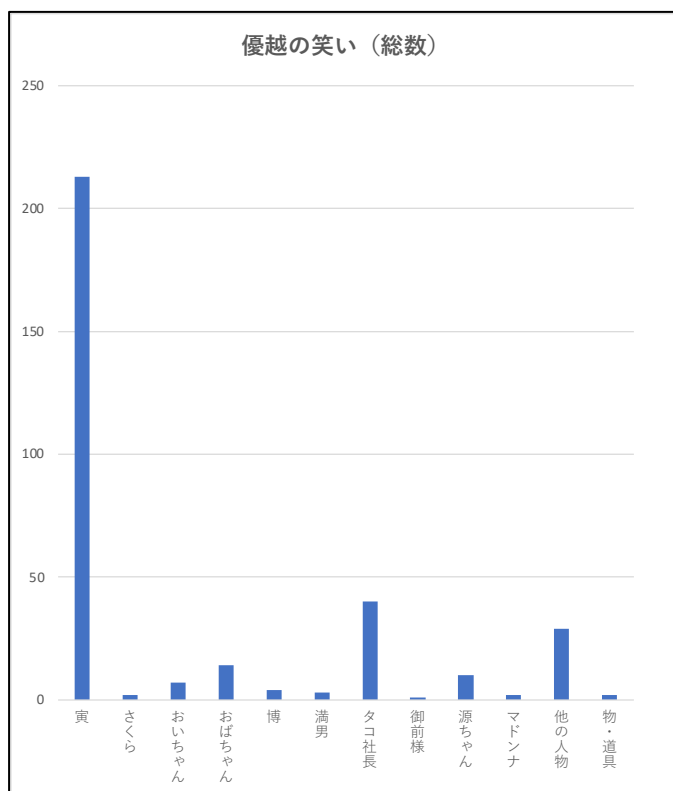


図 28 全 48 作の優越の笑い（総数）

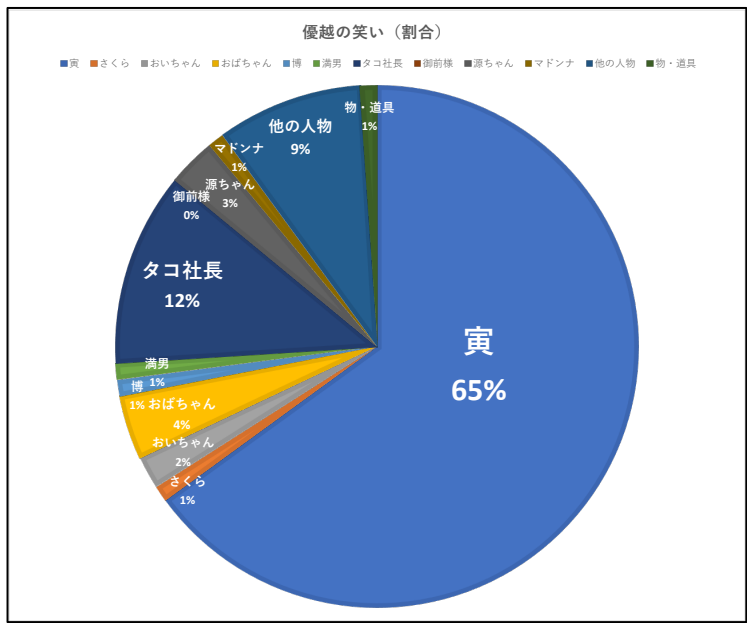


図 29 全 48 作の優越の笑い (割合)

全作品の「優越の笑い」において、寅が占める割合は 65%と、他の登場人物に比べ圧倒的に多い。寅の言動には子どもじみた失敗や勘違いが多く、大人ならば当然知っているはずの常識も知っていないことが多かったり、良識ある大人なら普通は控える言動をしたりするからである。タコ社長にもこの笑いが多いのは、前述したとおりである。

全 48 作における登場人物別の「優越の笑い」の数の推移を示したのが図 30 である。

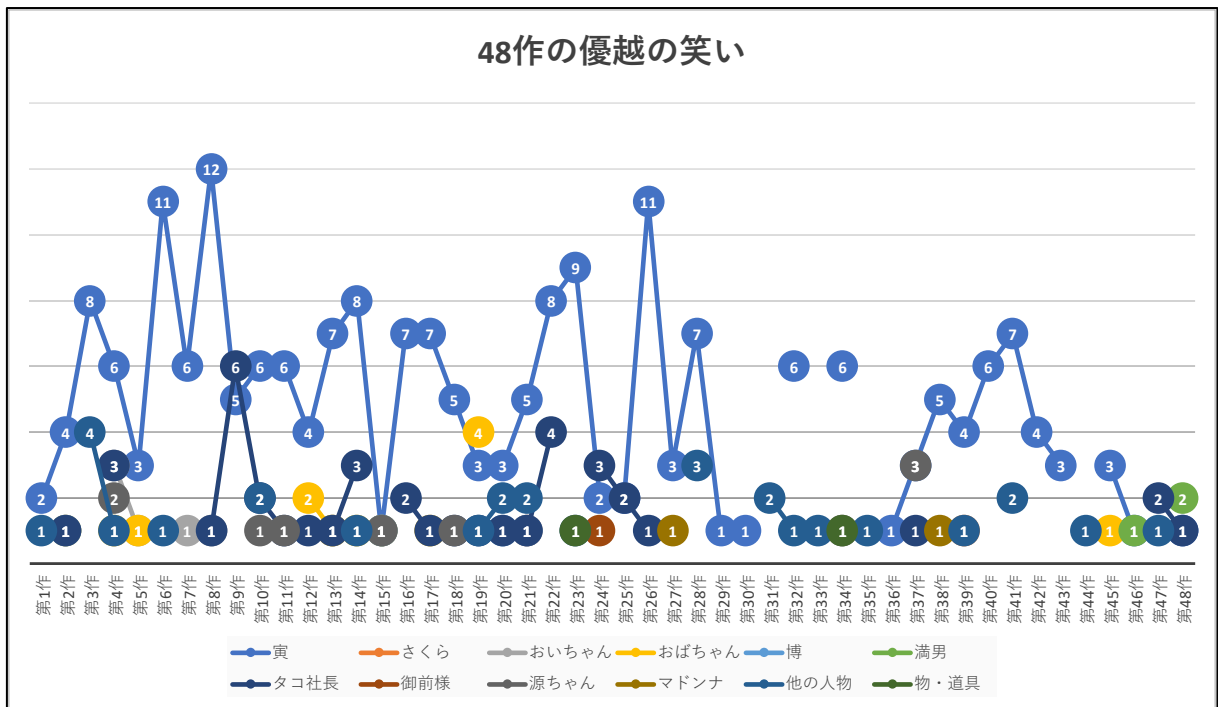


図 30 全 48 作の優越の笑い

ズレの笑い

全 48 作における「ズレの笑い」について、人物別の総数と割合を示したのが表 4 である。そのうち総数を示すグラフが図 31 であり、割合を示したグラフが図 32 である。

表4 全48作のズレの笑い(総数)

人物	総数	割合(総数)
寅	273	55%(273)
さくら	4	1%(4)
おいちゃん	16	3%(16)
おばちゃん	20	4%(20)
博	16	3%(16)
満男	18	4%(18)
タコ社長	17	3%(17)
御前様	5	1%(5)
源ちゃん	8	2%(8)
マドンナ	8	2%(8)
他の人物	97	20%(97)
物・道具	10	2%(10)
合計	492	100%(492)

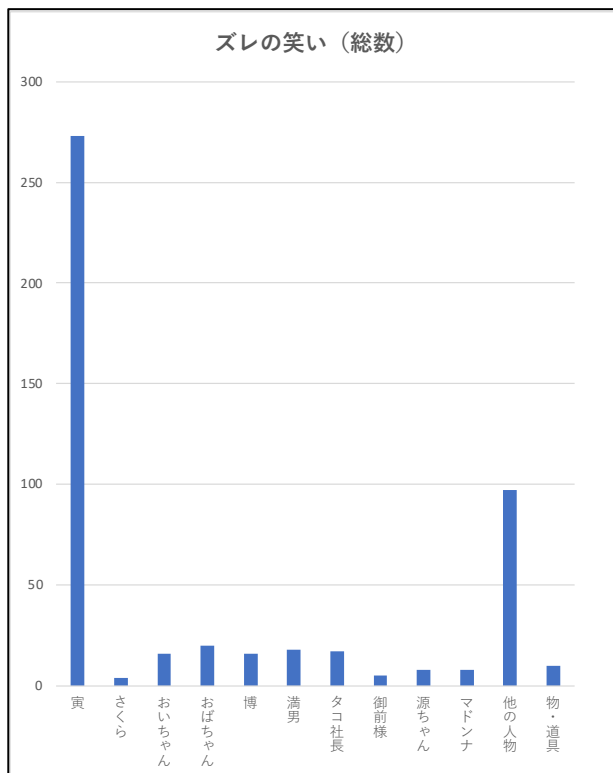


図31 全48作のズレの笑い(総数)

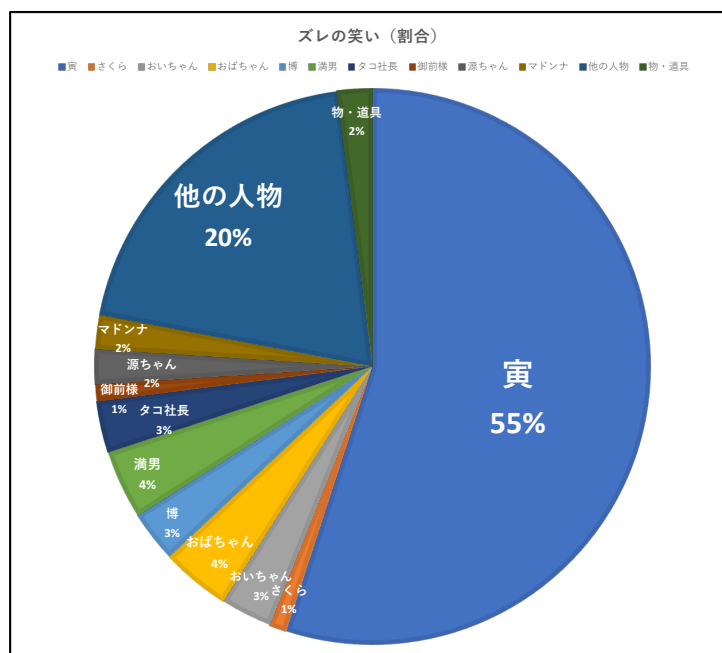


図32 全48作のズレの笑い(割合)

寅に次いで「ズレの笑い」を多く生んでいるのは「他の人物」であり、特に第17作では11個と多い。画家の青観役で登場した宇野重吉と市の職員役を演じた寺尾聰という寅の親子が、ズレの面白さを随所で演じている。

全 48 作における登場人物別の「ズレの笑い」の数の推移を示したのが図 33 である。

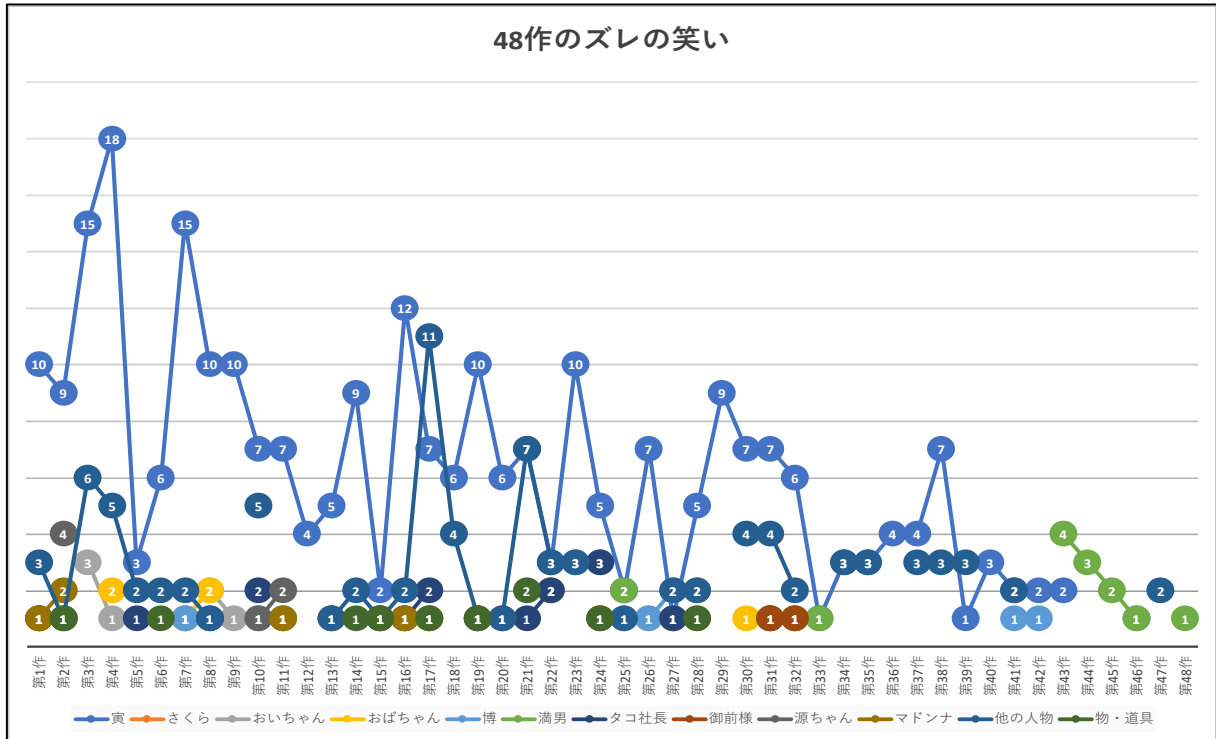


図 33 全 48 作のズレの笑い

放出の笑い

全 48 作における「放出の笑い」について、人物別の総数と割合を示したのが表 5 である。そのうち総数を示すグラフが図 34 であり、割合を示したグラフが図 35 である。

表 5 全 48 作の放出の笑い (総数)

人物	総数	割合 (総数)
寅	119	75%(119)
さくら	2	1%(2)
おいちゃん	5	3%(5)
おばちゃん	0	0%(0)
博	3	2%(3)
満男	4	3%(4)
タコ社長	5	3%(5)
御前様	0	0%(0)
源ちゃん	0	0%(0)
マドンナ	2	1%(2)
他の人物	19	12%(19)
物・道具	0	0%(0)
合計	159	100%(159)

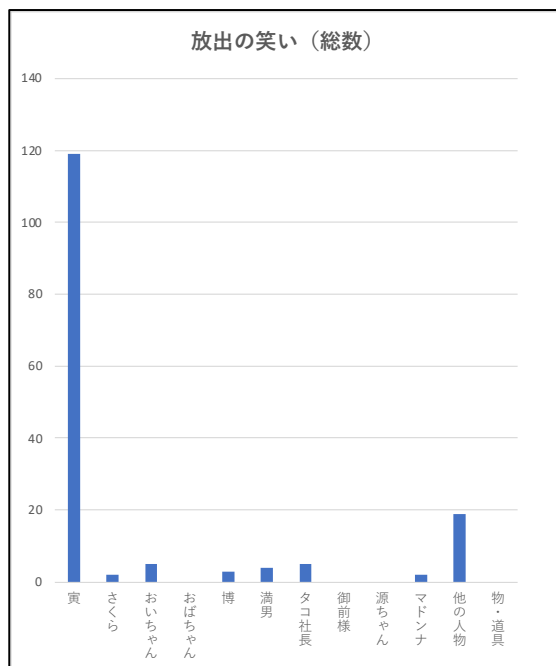


図 34 全 48 作の放出の笑い (総数)

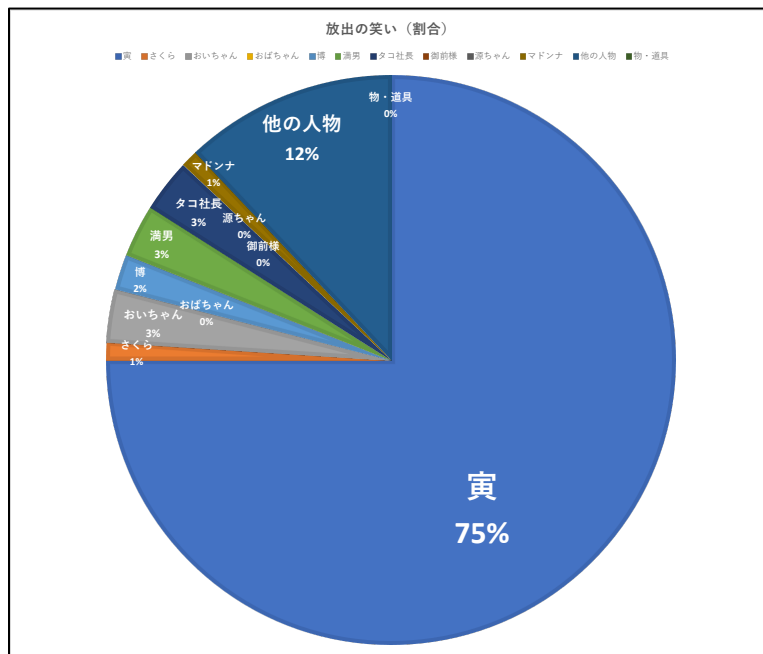


図 35 全 48 作の放出の笑い (割合)

全ての「放出の笑い」のうち、75%が寅によって生み出されている。その中でも特に多かったのが第1作と第10作。第1作ではさくらの見合いの席で下ネタを連発して縁談を破談にしてしまい、博とやり合う場面でも下ネタを多く発している。第10作では、大小便という排泄行為に関わる台詞が多く見られた。

全48作における登場人物別の「放出の笑い」の数の推移を示したのが図36である。第23作では、湯原昌幸演じる旅館の若主人がズボンのチャックに股間を挟んでしまい、それに関連した下ネタが演じられていた。

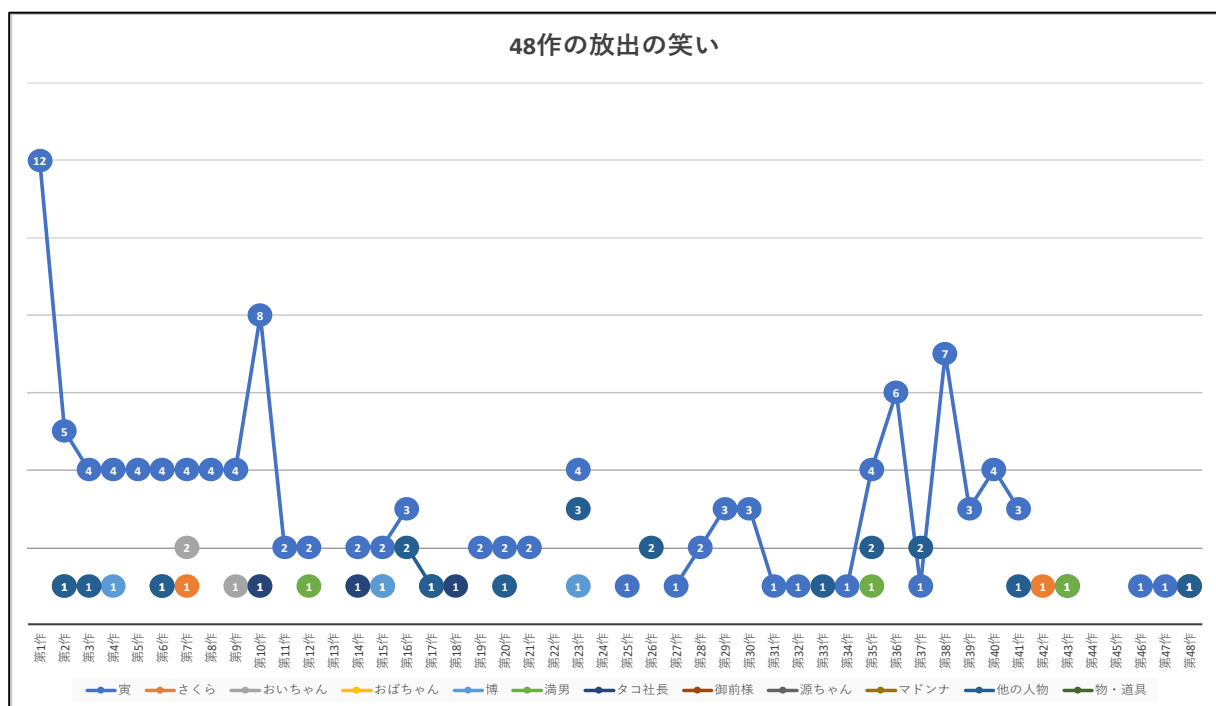


図 36 全 48 作の放出の笑い

言葉の笑い

全 48 作における「言葉の笑い」について、人物別の総数と割合を示したのが表 6 である。そのうち総数を示すグラフが図 37 であり、割合を示したグラフが図 38 である。

表 6 全 48 作の言葉の笑い（総数）

人物	総数	割合(総数)
寅	616	57%(616)
さくら	25	2%(25)
おいちゃん	79	7%(79)
おばちゃん	70	7%(70)
博	28	3%(28)
満男	38	4%(38)
タコ社長	28	3%(28)
御前様	17	2%(17)
源ちゃん	7	1%(7)
マドンナ	25	2%(25)
他の人物	138	13%(138)
物・道具	4	0%(4)
合計	1075	101%(1075)

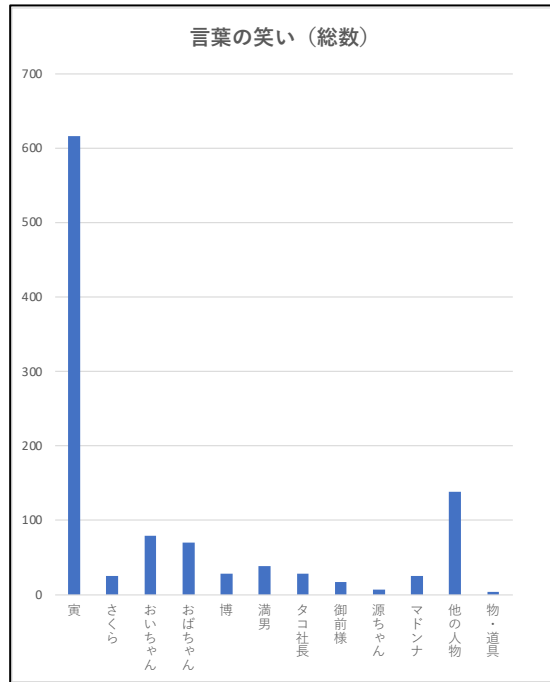


図 37 全 48 作の言葉の笑い（総数）

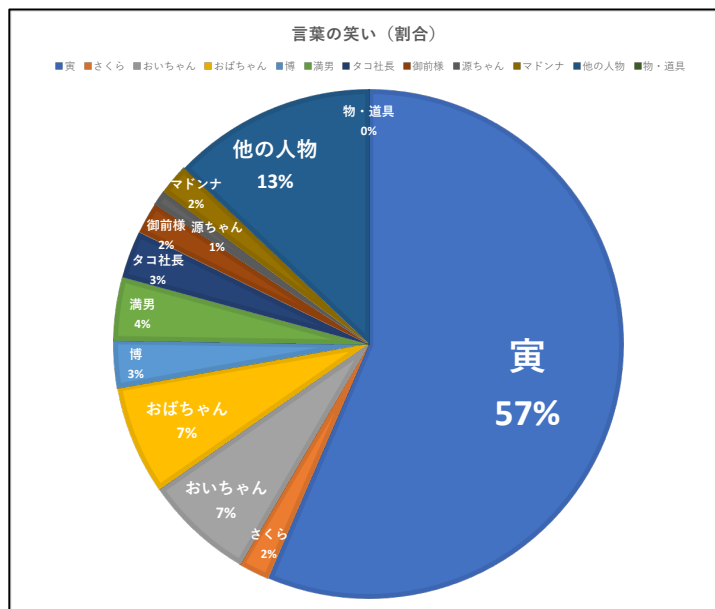


図 38 全 48 作の言葉の笑い（割合）

多くの登場人物によって生み出される「言葉の笑い」であるが、やはり寅の占める比率が圧倒的に多い。その中でも特に多かったのが、第 8 作、第 9 作、第 12 作、第 16 作、第 40 作、第 41 作(以上は 20 回以上)。第 12 作では、寅がマドンナのりつ子(岸恵子)とその兄文彦(前田武彦)とのやり取りのシーンで、第 40 作では老女キクエ(鈴木光枝)、マドンナの原田真知

子(三田佳子)とのやり取りや早稲田大学でのもぐりの授業中での発言のシーンで「言葉の笑い」が見られ、第 41 作では坂口兵馬(柄本明)とのやり取りや、ウィーンロケと関連したドイツ語や文化の違いを扱った「言葉の笑い」が多く見られた。

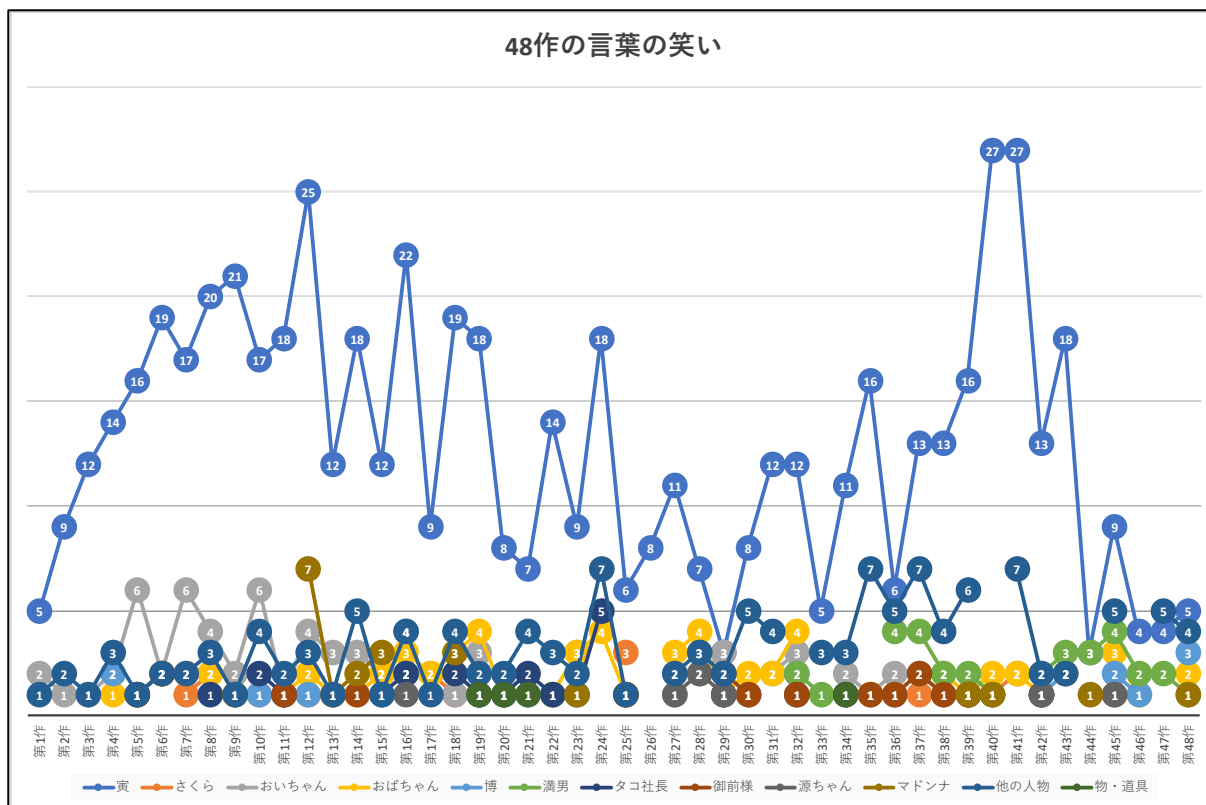


図 39 全 48 作の言葉の笑い

次に多かった「他の人物」では、特に第 24 作、第 35 作、第 37 作、第 41 作に「言葉の笑い」が多く見られた(すべて 7 回)。第 24 作はマイケル、第 35 作は民夫の親戚ら脇役によって、第 37 作は倉田健吾役の長瀬剛によって、第 41 作は坂口兵馬役の柄本明によって「言葉の笑い」が生み出されている。

表情・外見の笑い

全 48 作における「表情・外見の笑い」について、人物別の総数と割合を示したのが表 7 である。そのうち総数を示すグラフが図 40 であり、割合を示したグラフが図 41 である。

「表情・外見の笑い」でも寅が占める割合は 60%と圧倒的だが、続く「他の人物」でこの笑いを多く取っている作品は、第 21 作(7 回)、第 33 作(7 回)、第 35 作(9 回)、第 39 作(8 回)である。第 21 作は武田鉄矢演じる後藤留吉、第 33 作は佐藤 B 作が演じる福田栄作、第 35 作は平田満による酒田民夫、第 39 作は宿屋のパート役の正司敏江や船長役のすまけいによるところが大きい。

表 7 全 48 作の表情・外見の笑い（総数）

人物	総数	割合（総数）
寅	530	60%(530)
さくら	13	1%(13)
おいちゃん	48	5%(48)
おばちゃん	22	3%(22)
博	25	3%(25)
満男	25	3%(25)
タコ社長	39	4%(39)
御前様	6	1%(6)
源ちゃん	36	4%(36)
マドンナ	7	1%(7)
他の人物	118	13%(118)
物・道具	11	1%(11)
合計	880	99%(880)

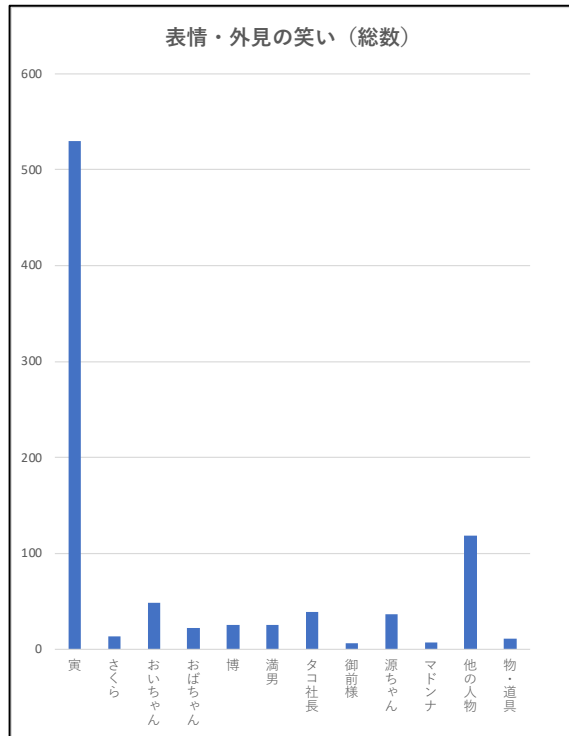


図 40 全 48 作の表情・外見の笑い（総数）

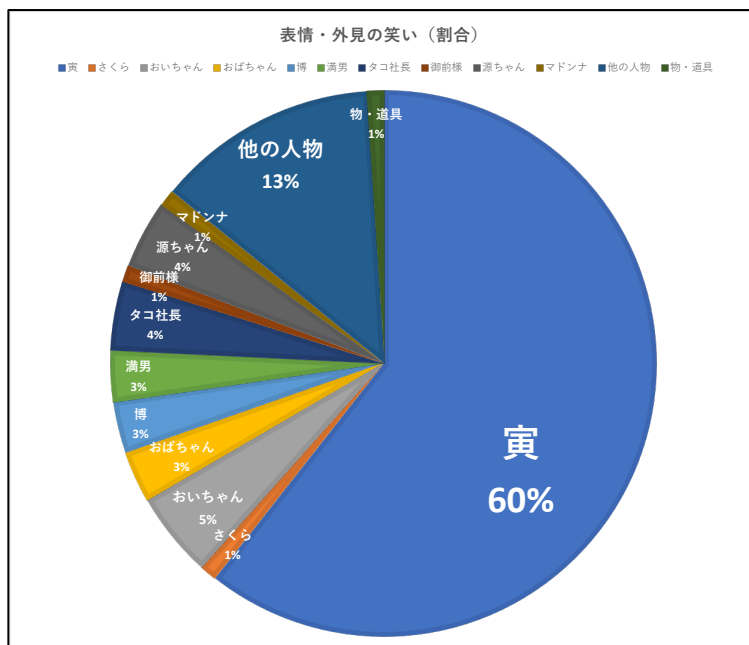


図 41 全 48 作の表情・外見の笑い（割合）

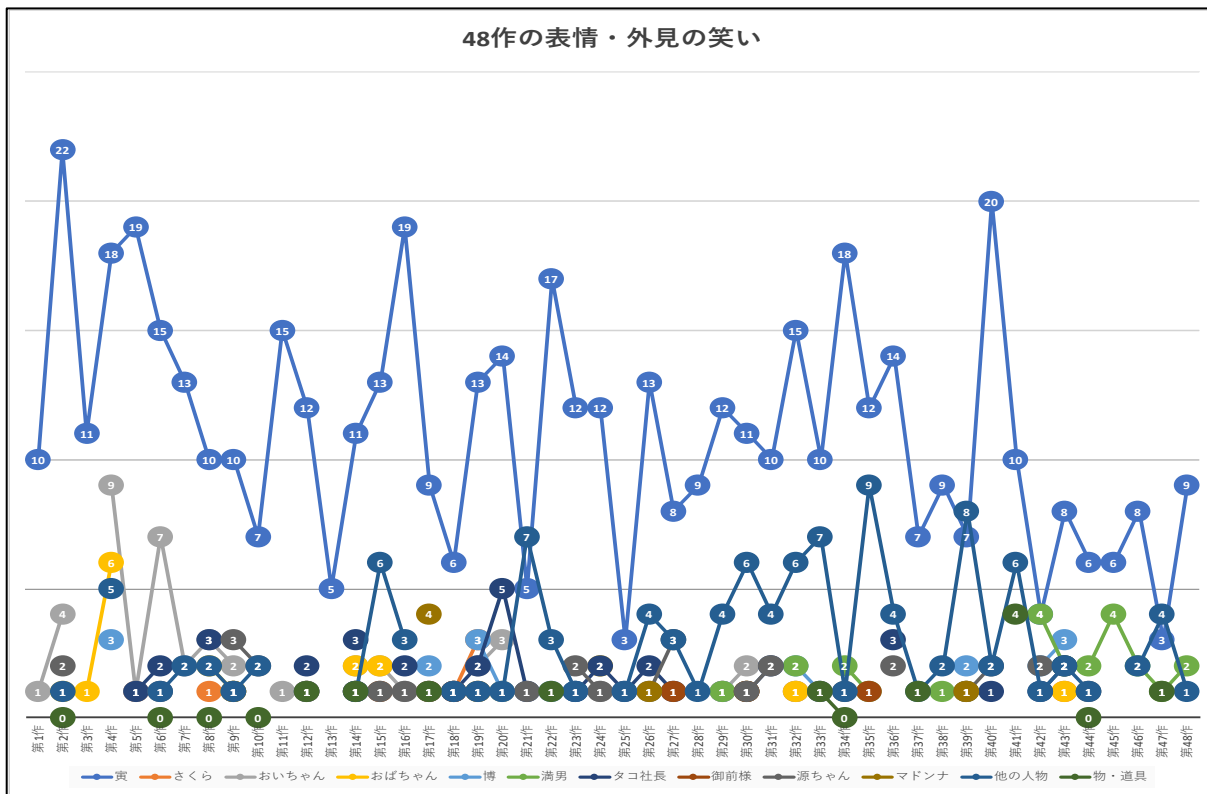


図 42 全 48 作の表情・外見の笑い

所作・身体の笑い

全 48 作における「所作・身体の笑い」について、人物別の総数と割合を示したのが表 8 である。そのうち総数を示すグラフが図 43 であり、割合を示したグラフが図 44 である。

表 8 全 48 作の所作・身体の笑い（総数）

人物	合計	割合（総数）
寅	448	50%(448)
さくら	17	2%(17)
おいちゃん	47	5%(47)
おばちゃん	26	3%(26)
博	18	2%(18)
満男	34	4%(34)
タコ社長	31	3%(31)
御前様	6	1%(6)
源ちゃん	70	8%(70)
マドンナ	5	1%(5)
他の人物	177	20%(177)
物・道具	12	1%(12)
合計	891	100%(891)

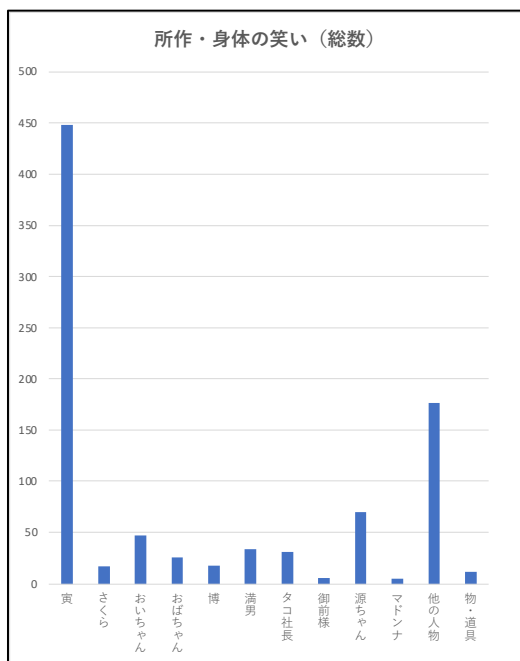


図 43 全 48 作の所作・身体の笑い（総数）

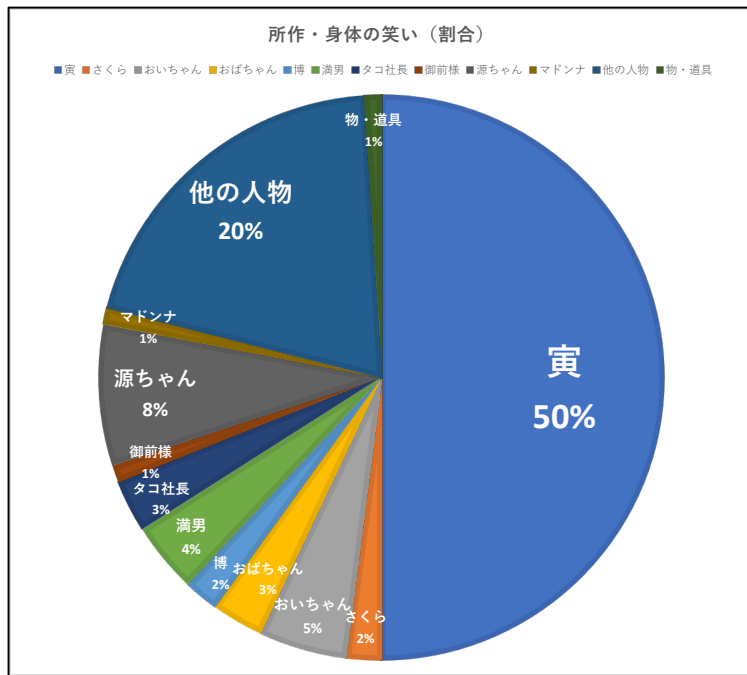


図 44 全 48 作の所作・身体の笑い (割合)

「他の人物」で「所作・身体の笑い」を特に多く取っている作品は、第 19 作(10 回)、第 24 作(14 回)、第 35 作(16 回)であった。第 19 作は、嵐寛寿郎演じる藤堂久宗と執事役の三木のり平がこの笑いに多く関連している。第 24 作は、ハーブ・エデルマン演じるマイケルが「所作・身体の笑い」を多く生んでいる。第 35 作は、平田満演じる酒田民夫に、この笑いが多く見られた。

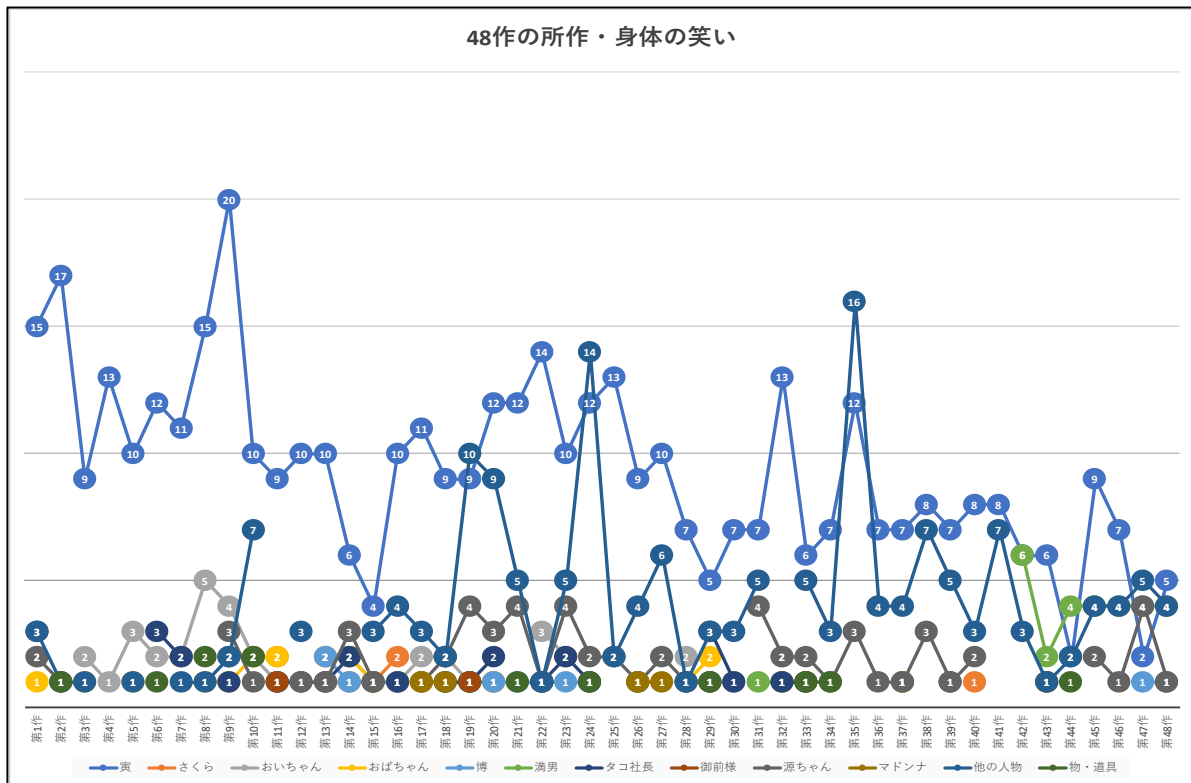


図 45 全 48 作の所作・身体の笑い

4.まとめ

『男はつらいよ』全48作における笑いを、「優越の笑い」、「ズレの笑い」、「放出の笑い」、「言葉の笑い」、「表情・外見の笑い」、「所作・身体の笑い」の6つに分類し、登場人物別にカウントを試みた。どの笑いにおいても主人公の寅が生み出す笑いの数は圧倒的に多く、それぞれの笑い全体の中で寅が占める割合は、「優越の笑い」(65%)、「ズレの笑い」(55%)、「放出の笑い」(75%)、「言葉の笑い」(57%)、「表情・外見の笑い」(60%)、「所作・身体の笑い」(50%)であった。「放出の笑い」については、性的・生理的な下ネタや強い緊張を緩和する笑いで多くの笑いを生み出しており、特に第1作から第10作までに「放出の笑い」が多い傾向が伺えた。

寅は全48作における全ての笑いの約6割を生んでおり、やはりこの作品は渥美清の才能に依るところが大きく、多種多様な演技で笑いを取れる渥美清の才能の高さを確認できた。

登場人物別で寅の次に多く笑いを生んでいるのは、レギュラー陣ではない「他の人物」で、ゲスト出演している名優たちが、寅との掛け合いで多くの笑いを生んでいる。

全ての笑いに登場人物が占める割合について、寅以外のレギュラー陣では、おいちゃんが5%、おばちゃんとタコ社長が4%、満男と源ちゃんが3%という結果であった。基本的に、おいちゃん、おばちゃん、さくら、博は常識的・良識的な人物であり、寅の常識から外れた言動に対して、常識的立場から正すという役割を果たして、漫才で言えば、寅のボケに対してツッコミ的役割を果たす。

おいちゃん、おばちゃん、さくらでは「言葉の笑い」が比較的多いが、どの俳優も話す内容の面白さだけでなく、顔の表情や体の動き・姿勢の要素なども含めた見事な演技で笑いを生んでいる。これら3名のレギュラー陣に加えて博も、笑いの各要素を見事に融合させたレベルの高い演技を演じている。

タコ社長は余計なことを言ってしまう騒動を頻繁に起こすため「優越の笑い」が多い。

吉岡秀隆が演じる満男に「所作・身体の笑い」が比較的多いのは、若さゆえの激しい動きの多さによるものである。

御前様は、役柄上激しい動きをするわけではなく、約半数が「言葉の笑い」である。

源ちゃんについては、「所作・身体の笑い」が圧倒的に多い代わりに、「言葉の笑い」が極端に少ない点が特徴的だった。

マドンナは笑いを生むキャラクターではないが、第12作と第17作では寅との掛け合いで笑いが比較的多く生み出されている。

6つの笑いの種類については、全ての笑いに占める割合を述べると、「言葉の笑い」が最も多く28%、次に「表情・外見の笑い」と「所作・身体の笑い」がともに23%、「ズレの笑い」が13%、「優越の笑い」が9%、「放出の笑い」が4%という結果となった。

「ズレの笑い」が13%という比較的低い数値になった理由は、言葉の表現、表情、身体的動きのほうが特徴的で面白い場合にはそれぞれ「言葉の笑い」、「表情・外見の笑い」、「所作・身体の笑い」のほうにカウントしたことと、「ズレの笑い」を、ストーリーの展開で登場人物が強く感じさせる言動のズレや言行不一致の言動・矛盾した言動という点に焦点をあててカウントしたことによる。

注

- (1) 笑いを6種類に分類するにあたって筆者が参考にしたものは、井上宏『笑い学のすすめ』（世界思想社、2004）、J.モリオール／森下伸也訳『ユーモア社会をもとめて』（新曜社、1995）である。これらには笑いの理論として、優越の理論、ズレの理論、放出の理論が紹介されている。筆者はこの3つの理論を参考にしつつ、さらに言葉の表現による面白さ、表情・外見の面白さ、所作や身体的動きの面白さ、という3つを加えて計6種類の笑いとし、それぞれの笑いの定義を行ったうえで分類を試みた。
- (2) モリオールは突然の変化を意味する「転位」という言葉を使って、笑いは「愉快的心理的転位から生じる」と説明する。ズレた言動によって心理的転位が起こったとしても、その内容が愉快的ものでなければ笑いは起こらないことを説明して、以下のように言う。
- 「さて、一般的な事例において、笑いをひきおこす心理的転位は愉快的なものである。例えば、自分がクジにあたったと知るとは、そうした転位をもたらす、ひとを笑わせるであろう。一方、友人が殺害されたと知るとは、たしかにまったくおなじくらの大きな心理的転位を含んではいるが、愉快的なものではないために、笑いを生まないであろう。（中略）恐怖、憐れみ、憤慨、嫌悪感といった数多くの否定的感情のうちどれかひとつでも喚起されれば、心理的転位は不快なものとなりうるのである。」J.モリオール前掲書、p.93

参考資料

全 48 作品における登場人物別の笑いの種類と笑いの数

- ・表① 寅
- ・表② さくら
- ・表③ おいちゃん
- ・表④ おばちゃん
- ・表⑤ 博
- ・表⑥ 満男
- ・表⑦ タコ社長
- ・表⑧ 御前様
- ・表⑨ 源ちゃん
- ・表⑩ マドンナ
- ・表⑪ 他の人物
- ・表⑫ 物・道具

表① 全48作の笑いの種類(寅)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作	2	10	12	5	10	15	54
第2作	4	9	5	9	22	17	66
第3作	8	15	4	12	11	9	59
第4作	6	18	4	14	18	13	73
第5作	3	3	4	16	19	10	55
第6作	11	6	4	19	15	12	67
第7作	6	15	4	17	13	11	66
第8作	12	10	4	20	10	15	71
第9作	5	10	4	21	10	20	70
第10作	6	7	8	17	7	10	55
第11作	6	7	2	18	15	9	57
第12作	4	4	2	25	12	10	57
第13作	7	5		12	5	10	39
第14作	8	9	2	18	11	6	54
第15作	1	2	2	12	13	4	34
第16作	7	12	3	22	19	10	73
第17作	7	7		9	9	11	43
第18作	5	6		19	6	9	45
第19作	3	10	2	18	13	9	55
第20作	3	6	2	8	14	12	45
第21作	5	7	2	7	5	12	38
第22作	8	3		14	17	14	56
第23作	9	10	4	9	12	10	54
第24作	2	5		18	12	12	49
第25作	2	2	1	6	3	13	27
第26作	11	7		8	13	9	48
第27作	3	1	1	11	8	10	34
第28作	7	5	2	7	9	7	37
第29作	1	9	3	3	12	5	33
第30作	1	7	3	8	11	7	37
第31作		7	1	12	10	7	37
第32作	6	6	1	12	15	13	53
第33作		1		5	10	6	22
第34作	6	3	1	11	18	7	46
第35作		3	4	16	12	12	47
第36作	1	4	6	6	14	7	38
第37作	3	4	1	13	7	7	35
第38作	5	7	7	13	9	8	49
第39作	4	1	3	16	7	7	38
第40作	6	3	4	27	20	8	68
第41作	7	2	3	27	10	8	57
第42作	4	2		13	4	6	29
第43作	3	2	1	18	8	6	38
第44作				3	6	2	11
第45作	3			9	6	9	27
第46作	1	1	1	4	8	7	22
第47作			1	4	3	2	10
第48作	1		1	5	9	5	21
合計	213	273	119	616	530	448	2199

表② 全 48 作の笑いの種類 (さくら)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作							0
第2作							0
第3作							0
第4作							0
第5作					1		1
第6作							0
第7作		1	1	1			3
第8作				2	1		3
第9作					1	2	3
第10作				1			1
第11作						2	2
第12作				1	1		2
第13作						1	1
第14作					1	1	2
第15作				2		1	3
第16作				2		2	4
第17作		1		2			3
第18作				1	1	2	4
第19作				1	3		4
第20作				1		1	2
第21作	1						1
第22作						1	1
第23作							0
第24作							0
第25作				3			3
第26作							0
第27作							0
第28作		2				1	3
第29作					1		1
第30作				1			1
第31作							0
第32作					1		1
第33作							0
第34作							0
第35作							0
第36作							0
第37作				1		1	2
第38作							0
第39作	1			1	1		3
第40作				1		1	2
第41作				2			2
第42作			1				1
第43作				2	1		3
第44作							0
第45作							0
第46作							0
第47作							0
第48作						1	1
合計	2	4	2	25	13	17	63

表③ 全 48 作の笑いの種類 (おいちゃん)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作				2	1	2	5
第2作				1	4		5
第3作		3		1		2	6
第4作	3	1		2	9	1	16
第5作	1			6	1	3	11
第6作				2	7	2	11
第7作	1	1	2	6	2	2	14
第8作	1	2		4	3	5	15
第9作		1	1	2	2	4	10
第10作		1	1	6		2	10
第11作		1		1	1	1	4
第12作				4	1		5
第13作	1			3		2	6
第14作				3	2	2	7
第15作		1	1	2	2	1	7
第16作				4	1	1	6
第17作						2	2
第18作				1		2	3
第19作				3	2	1	6
第20作		1		1	3	1	6
第21作							0
第22作		2				3	5
第23作				3		2	5
第24作					1		1
第25作		1		1			2
第26作							0
第27作				2			2
第28作				2		2	4
第29作				3	1		4
第30作					2	1	3
第31作				2			2
第32作		1		3	1	2	7
第33作							0
第34作				2			2
第35作				1			1
第36作				2			2
第37作				2		1	3
第38作				1			1
第39作				1			1
第40作							0
第41作							0
第42作							0
第43作					2		2
第44作							0
第45作							0
第46作							0
第47作							0
第48作							0
合計	7	16	5	79	48	47	202

表④ 全 48 作の笑いの種類 (おばちゃん)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作		1				1	2
第2作	1	1			1		3
第3作					1	1	2
第4作	1	2		1	6		10
第5作	1			1		1	3
第6作				2			2
第7作		1		2			3
第8作		2		2	2	1	7
第9作					1	1	2
第10作						2	2
第11作		1		1		2	4
第12作	2			2			4
第13作	1			1		2	4
第14作	1			1	2	2	6
第15作	1	1		2	2	1	7
第16作		1		3		1	5
第17作	1	1		2		1	5
第18作				3		1	4
第19作	4	1		4	1		10
第20作				1	1	1	3
第21作							0
第22作		2		1		1	4
第23作				3			3
第24作		1		4	2	1	8
第25作				1			1
第26作		1				1	2
第27作		1		3			4
第28作				4		1	5
第29作				1		2	3
第30作		1		2	1		4
第31作		1		2			3
第32作		1		4	1	1	7
第33作							0
第34作				1			1
第35作				1			1
第36作				1			1
第37作						1	1
第38作				2			2
第39作				1			1
第40作				2			2
第41作				2			2
第42作				1			1
第43作					1		1
第44作							0
第45作	1			3			4
第46作				1			1
第47作							0
第48作				2			2
合計	14	20	0	70	22	26	152

表⑤ 全 48 作の笑いの種類 (博)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作		1					1
第2作	1						1
第3作							0
第4作			1	2	3		6
第5作							0
第6作							0
第7作		1					1
第8作							0
第9作					1	2	3
第10作		1		1			2
第11作		1		1		1	3
第12作				1	1		2
第13作		1				2	3
第14作					1	1	2
第15作	1		1			1	3
第16作				2		1	3
第17作					2		2
第18作						1	1
第19作				1	3	1	5
第20作	1			1	1	1	4
第21作	1			1		1	3
第22作					1	1	2
第23作		3	1		1	1	6
第24作		3				1	4
第25作							0
第26作		1					1
第27作		2		1			3
第28作						1	1
第29作				1	1		2
第30作				1			1
第31作							0
第32作				2	2		4
第33作					1		1
第34作				1			1
第35作							0
第36作				1			1
第37作							0
第38作							0
第39作				1	2		3
第40作				1			1
第41作		1					1
第42作		1		1	2		4
第43作				2	3		5
第44作							0
第45作				2			2
第46作				1			1
第47作						1	1
第48作				3		1	4
合計	4	16	3	28	25	18	94

表⑥ 全 48 作の笑いの種類 (満男)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作							0
第2作							0
第3作							0
第4作							0
第5作							0
第6作							0
第7作							0
第8作							0
第9作							0
第10作							0
第11作							0
第12作			1				1
第13作							0
第14作							0
第15作							0
第16作							0
第17作							0
第18作							0
第19作				1		1	2
第20作							0
第21作							0
第22作				1			1
第23作							0
第24作							0
第25作		2					2
第26作							0
第27作		1					1
第28作		1		3			4
第29作					1	1	2
第30作							0
第31作		1				1	2
第32作		1		2	2	1	6
第33作		1		1		1	3
第34作					2		2
第35作			1		1		2
第36作				4			4
第37作				4		1	5
第38作				2	1		3
第39作				2	1		3
第40作				1			1
第41作							0
第42作				2	4	6	12
第43作		4	1	3	2	2	12
第44作		3		3	2	4	12
第45作		2		4	4	4	14
第46作	1	1		2	2	4	10
第47作				2	1	4	7
第48作	2	1	1	1	2	4	11
合計	3	18	4	38	25	34	122

表⑦ 全 48 作の笑いの種類 (タコ社長)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作		1				3	4
第2作	1						1
第3作							0
第4作	3						3
第5作		1		1	1		3
第6作			1	2	2	3	8
第7作						2	2
第8作	1	1		1	3		6
第9作	6					1	7
第10作	2	2	1	2			7
第11作	1			1		1	3
第12作	1				2	1	4
第13作	1					1	2
第14作	3		1		3	2	9
第15作		1		1			2
第16作	2	1		2	2	1	8
第17作	1	2	1				4
第18作	1		1	2	1	1	6
第19作	1			1	2	1	5
第20作	1			1	5	2	9
第21作	1	1		2	1		5
第22作	4	2		1		1	8
第23作				1	1	2	4
第24作	3	3		5	2	1	14
第25作	2				1		3
第26作	1				2	1	4
第27作		1			1		2
第28作							0
第29作				1		3	4
第30作					1	1	2
第31作		1			2		3
第32作				1		1	2
第33作						1	1
第34作				1			1
第35作							0
第36作					3		3
第37作	1						1
第38作							0
第39作				1		1	2
第40作					1		1
第41作							0
第42作				1	1		2
第43作					2		2
第44作							0
第45作							0
第46作							0
第47作	2						2
第48作	1						1
合計	40	17	5	28	39	31	160

表⑧ 全 48 作の笑いの種類 (御前様)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作		1					1
第2作							0
第3作							0
第4作							0
第5作				1			1
第6作							0
第7作							0
第8作							0
第9作				1			1
第10作							0
第11作				1		1	2
第12作							0
第13作		1					1
第14作				1			1
第15作					1	1	2
第16作							0
第17作					1		1
第18作					1		1
第19作						1	1
第20作							0
第21作							0
第22作						1	1
第23作							0
第24作	1	1					2
第25作				1			1
第26作							0
第27作					1		1
第28作							0
第29作				2		1	3
第30作				1	1		2
第31作		1					1
第32作		1		1			2
第33作						1	1
第34作							0
第35作				1	1		2
第36作				1			1
第37作				2			2
第38作				1			1
第39作				1			1
第40作							0
第41作							0
第42作				1			1
第43作							0
第44作							0
第45作				1			1
第46作							0
第47作							0
第48作							0
合計	1	5	0	17	6	6	35

表⑨ 全 48 作の笑いの種類 (源ちゃん)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作						2	2
第2作		4			2	1	7
第3作							0
第4作	2						2
第5作							0
第6作					1		1
第7作							0
第8作							0
第9作					3	3	6
第10作	1	1			2	1	5
第11作	1	2					3
第12作					1	1	2
第13作						1	1
第14作					1	3	4
第15作	1				1	1	3
第16作		1		1	1		3
第17作					1	1	2
第18作	1				1	2	4
第19作					1	4	5
第20作						3	3
第21作					1	4	5
第22作						1	1
第23作					2	4	6
第24作					1	2	3
第25作						2	2
第26作					1	1	2
第27作				1	3	2	6
第28作				2		1	3
第29作				1		1	2
第30作					1		1
第31作					2	4	6
第32作						2	2
第33作					1	2	3
第34作	1				1	1	3
第35作						3	3
第36作					2	1	3
第37作	3					1	4
第38作						3	3
第39作					1	1	2
第40作					2	2	4
第41作							0
第42作				1	2		3
第43作						1	1
第44作					1		1
第45作				1		2	3
第46作						1	1
第47作						4	4
第48作						1	1
合計	10	8	0	7	36	70	131

表⑩ 全 48 作の笑いの種類 (マドンナ)

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作		1					1
第2作		2	1				3
第3作							0
第4作							0
第5作							0
第6作				2			2
第7作							0
第8作							0
第9作				1	1		2
第10作							0
第11作		1					1
第12作				7			7
第13作				1			1
第14作				2			2
第15作				3			3
第16作		1					1
第17作		1			4	1	6
第18作				3		1	4
第19作		1					1
第20作		1					1
第21作							0
第22作							0
第23作				1			1
第24作							0
第25作				1			1
第26作					1	1	2
第27作	1					1	2
第28作							0
第29作							0
第30作							0
第31作							0
第32作							0
第33作							0
第34作							0
第35作							0
第36作							0
第37作							0
第38作	1						1
第39作				1	1		2
第40作				1			1
第41作							0
第42作							0
第43作						1	1
第44作				1			1
第45作							0
第46作							0
第47作							0
第48作			1	1			2
合計	2	8	2	25	7	5	49

表① 全 48 作の笑いの種類（他の人物）

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作	1	3		1		3	8
第2作		1	1	2	1	1	6
第3作	4	6	1	1		1	13
第4作	1	5		3	5		14
第5作		2		1		1	4
第6作	1	2	1	2	1		7
第7作		2		2	2	1	7
第8作		1		3	2	1	7
第9作				1	1	2	4
第10作	2	5		4	2	7	20
第11作				2			2
第12作				3		3	6
第13作		1		1			2
第14作	1	2		5	1		9
第15作		1		1	6	3	11
第16作		2	2	4	3	4	15
第17作		11	1	1		3	16
第18作		4		4	1	2	11
第19作	1	1		2	1	10	15
第20作	2	1	1	2	1	9	16
第21作	2	7		4	7	5	25
第22作		3		3	3	1	10
第23作	1	3	3	2	1	5	15
第24作				7		14	21
第25作		1		1	1	2	5
第26作			2		4	4	10
第27作		2		2	3	6	13
第28作	3	2		3	1	1	10
第29作				2	4	3	9
第30作		4		5	6	3	18
第31作	2	4		4	4	5	19
第32作	1	2			6		9
第33作	1		1	3	7	5	17
第34作		3		3	1	3	10
第35作	1	3	2	7	9	16	38
第36作				5	4	4	13
第37作		3	2	7	1	4	17
第38作		3		4	2	7	16
第39作	1	3		6	8	5	23
第40作					2	3	5
第41作	2	2	1	7	6	7	25
第42作				2	1	3	6
第43作				2	2	1	5
第44作	1				1	2	4
第45作				5		4	9
第46作					2	4	6
第47作	1	2		5	4	5	17
第48作			1	4	1	4	10
合計	29	97	19	138	118	177	578

表⑫ 全 48 作の笑いの種類（物・道具）

	笑いの種類						合計
	優越	ズレ	放出	言葉	表情・外見	所作・身体	
第1作							0
第2作		1				1	2
第3作							0
第4作							0
第5作							0
第6作		1				1	2
第7作							0
第8作						2	2
第9作							0
第10作						2	2
第11作							0
第12作					1		1
第13作							0
第14作		1			1		2
第15作		1					1
第16作							0
第17作		1			1		2
第18作							0
第19作		1		1			2
第20作				1			1
第21作		2		1		1	4
第22作					1		1
第23作	1						1
第24作		1				1	2
第25作							0
第26作							0
第27作							0
第28作		1					1
第29作						1	1
第30作							0
第31作							0
第32作							0
第33作					1	1	2
第34作	1			1	0	1	3
第35作							0
第36作							0
第37作					1		1
第38作							0
第39作							0
第40作							0
第41作					4		4
第42作							0
第43作							0
第44作						1	1
第45作							0
第46作							0
第47作					1		1
第48作							0
合計	2	10	0	4	11	12	39